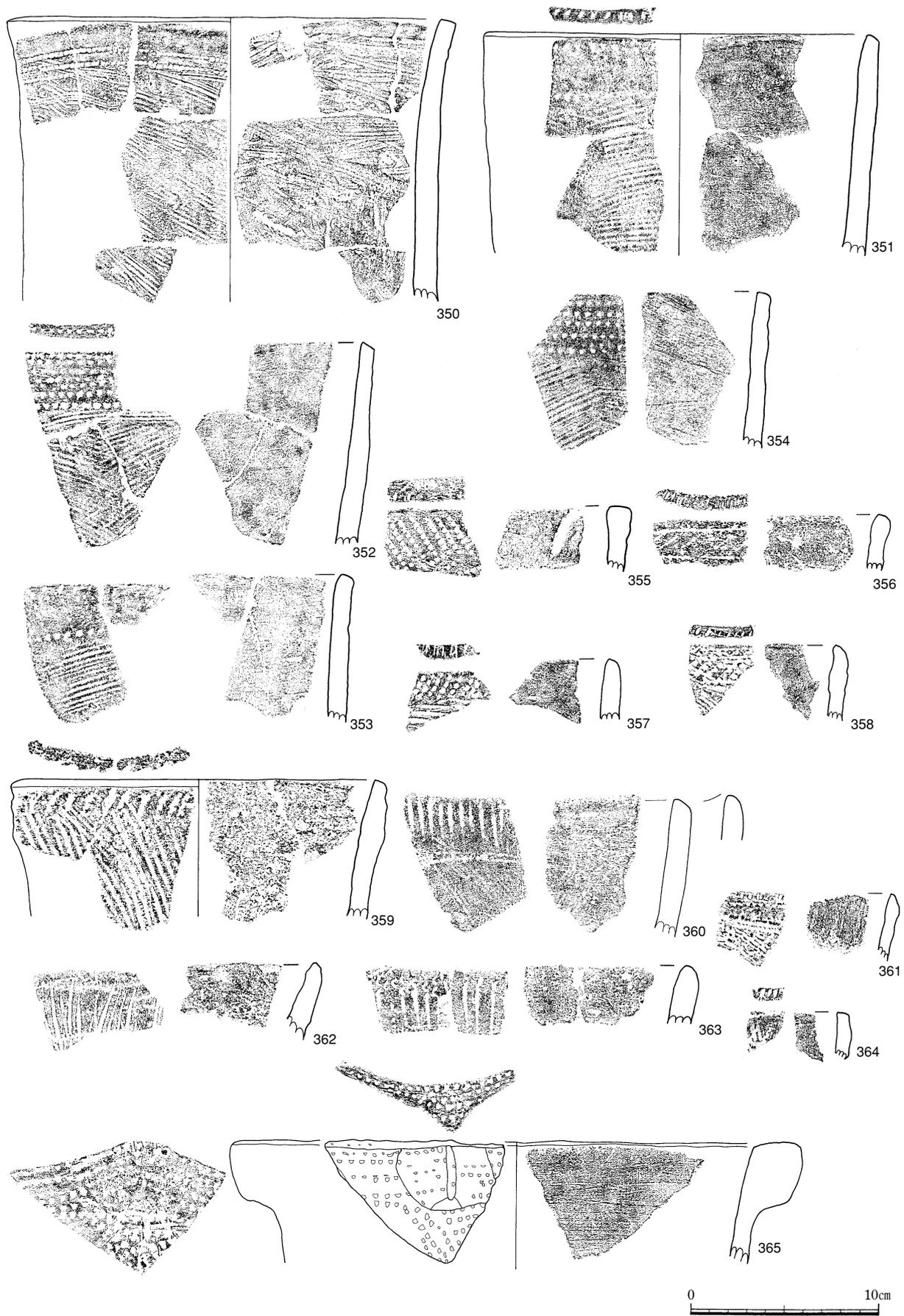
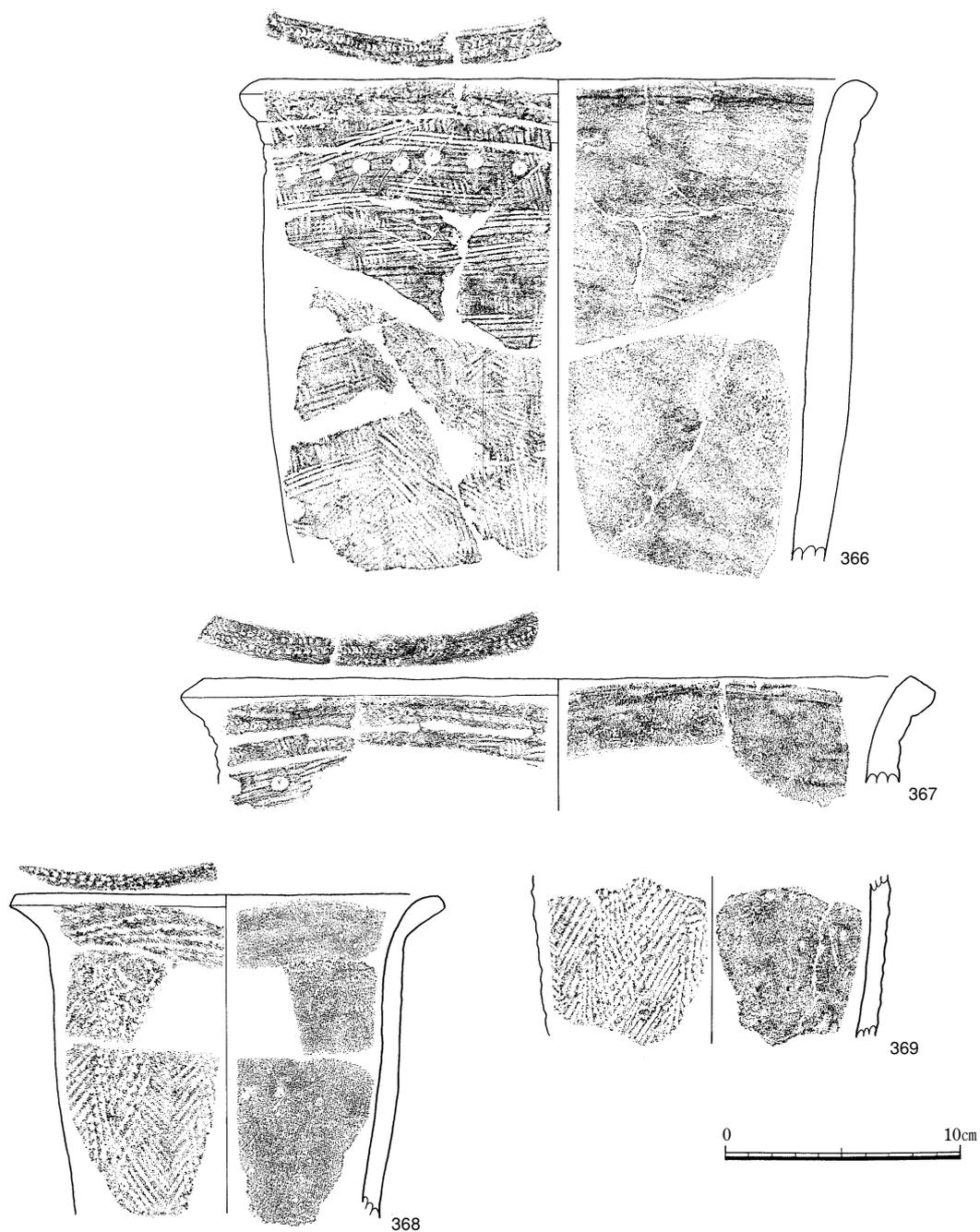


第44図 V類土器 (8)



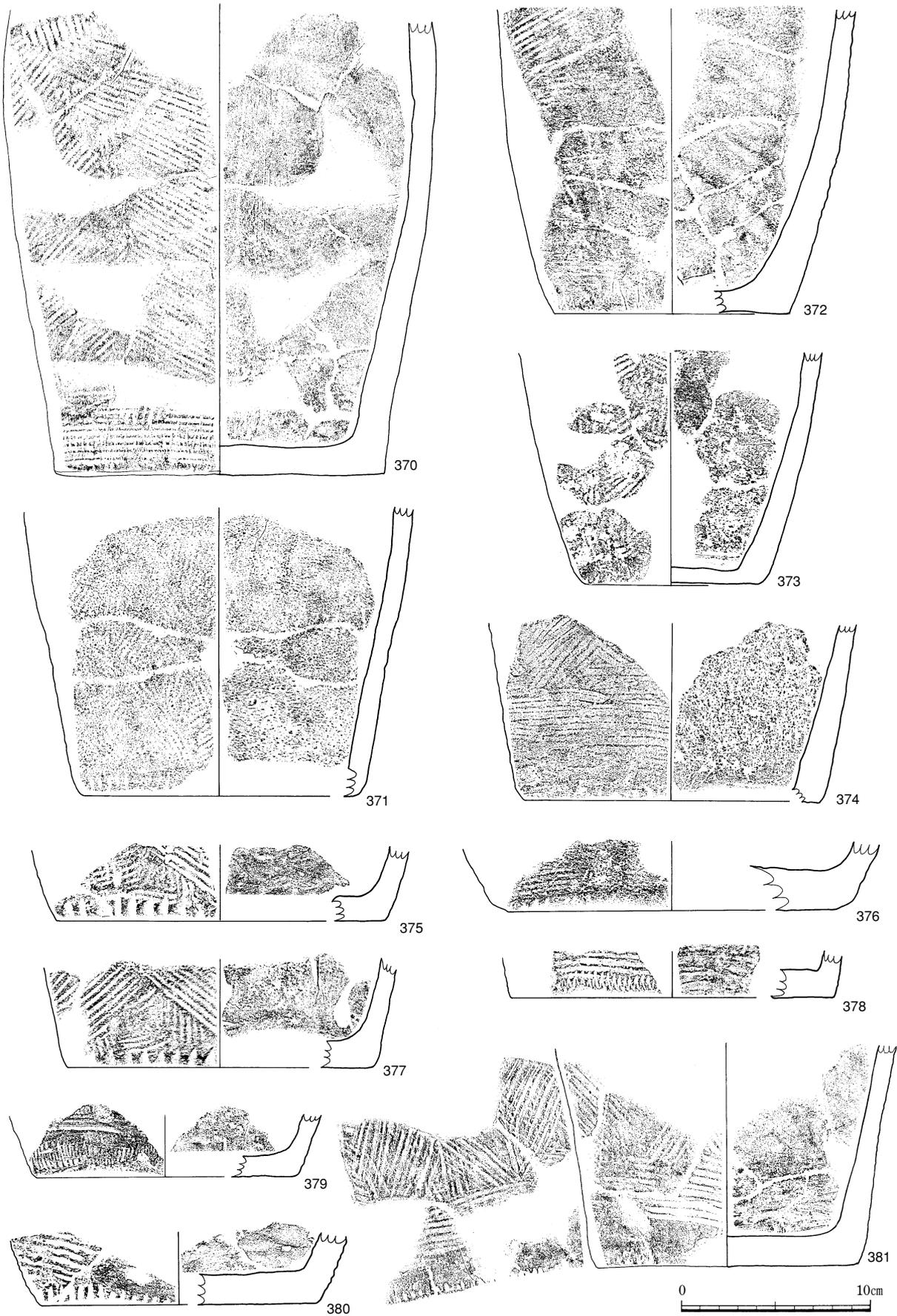
第45図 V類土器 (9)



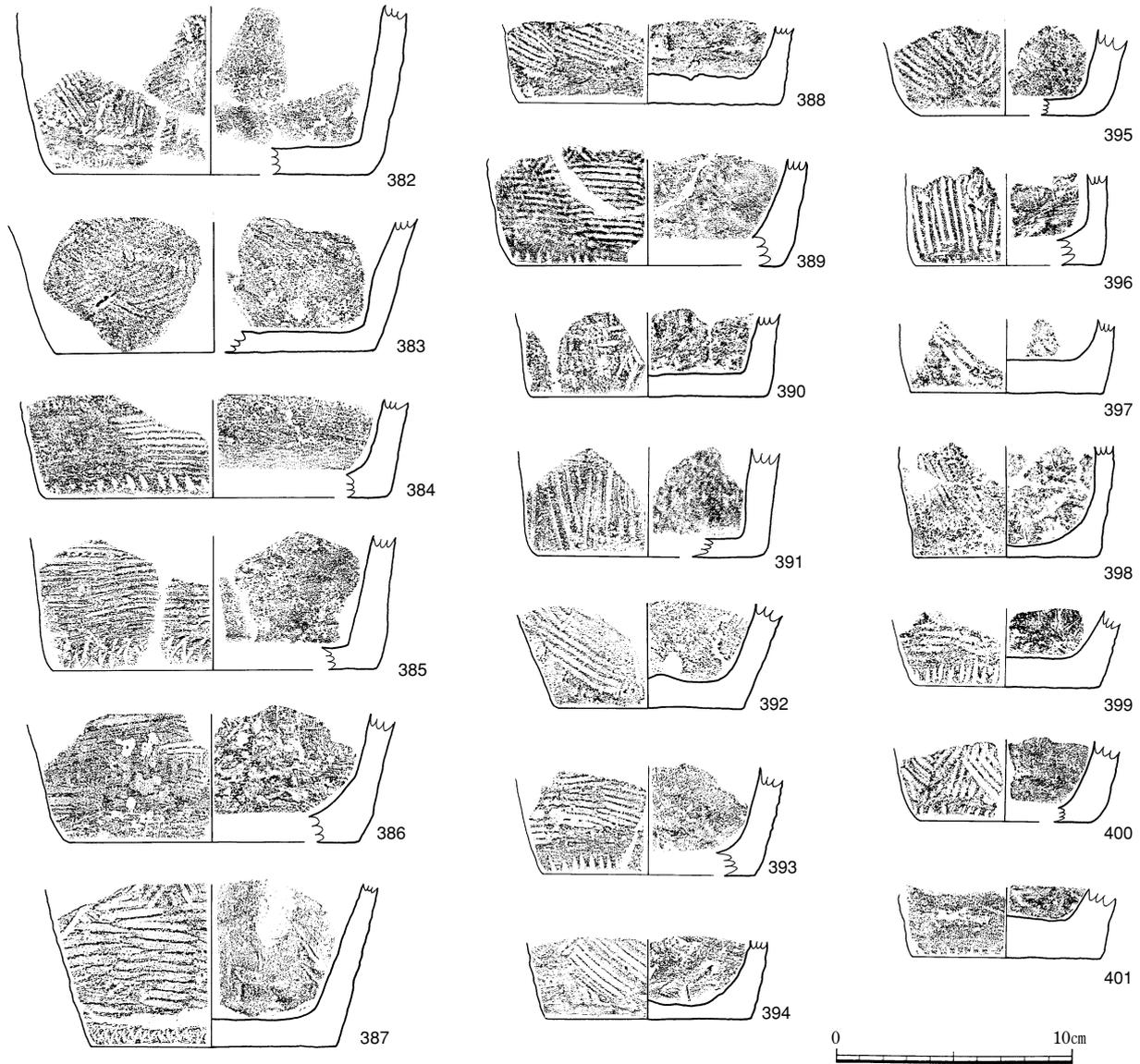
第46図 V類土器 (10)

375～380は底部である。375は、綾杉状の貝殻条痕が確認でき、底部外面周囲には、1 cmほどの深い沈線が縦位に施されている。376～380は貝殻条痕及びヘラによる浅い沈線が縦位に確認できる。

381～401は、底部で、その多くが貝殻による条痕文、ヘラによる縦位の沈線が施されている。387の内面、401の内底面には、指圧痕が確認できる。



第47図 V類土器 (11)



第48図 V類土器 (12)

V類土器観察表 3

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土	焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外					
第 41 図	306	H-6	IV	口縁~胴部	黄褐	橙	石英	良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	
	307	H-6	IV	口縁~胴部	橙	橙		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	308	H-6	IV	口縁部	にぶい黄	にぶい黄橙		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	309	H-5	IV	口縁~胴部	にぶい黄橙	にぶい橙		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	310	H-6	IV	口縁部	にぶい黄橙	黄褐		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	311	H-5・6・7	IV	口縁~胴部	にぶい黄褐	褐		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	312	G-7,H-6	IV	口縁~胴部	浅黄	浅黄		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	313	G-6,H-7	IV	口縁~胴部	にぶい橙	にぶい褐		良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	314	G-7,H-7	IV	口縁部	赤褐	暗赤褐		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	315	H-6	IV	口縁部	にぶい黄褐	黄灰		良	ヘラ状工具による刺突文・貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	316	H-6	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
第 42 図	317	H-6	IV	口縁部	黄褐	褐		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	口唇刻目
	318	H-7	IV	口縁部	褐	にぶい褐		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	319	H-7	IV	口縁部	暗オリーブ褐	褐		良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	320	H-7	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	口唇刻目
	321	H-6	IV	口縁部	褐	にぶい橙		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	322	H-7	IV	口縁部	オリーブ黒	にぶい黄		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	323	H-7	IV	口縁部	暗灰黄	明褐		良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	
	324	H-7	IV	口縁部	にぶい黄橙	橙		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	口唇刻目
	325	H-6	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙		良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	326	H-7	IV	口縁部	灰オリーブ	にぶい黄		良	ヘラ状工具による刺突文・貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	327	H-4	IV	口縁部	明黄褐	褐		良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	
	328	H-7	IV	口縁部	にぶい赤褐	にぶい褐		良	貝殻刺突文(横位・斜位)	ナデ	口唇刻目
	329	H-7	IV	口縁部	オリーブ黄	明黄褐		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	

V類土器観察表 4

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土					焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	石	その他				
第43図	330	H-6	IV	口縁部	明褐	明赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	331	H-6・7	IV	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○			良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	332	H-6・7	IV	口縁～胴部	明赤褐	にぶい橙	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	333	H-6・7	IV	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	334	H-7	IV	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	335	H-7	IV	口縁部	にぶい黄橙	褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	336	H-6・7	IV	口縁部	にぶい黄褐	灰オリーブ	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)	ナデ	口唇刻目
	337	H-6	IV	口縁～胴部	明赤褐	赤褐	○	○				良	ヘラ状工具による刺突文・条痕文	ナデ	口唇刻目
	338	H-6	IV	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	339	H-6	IV	口縁～胴部	にぶい黄褐	橙	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
第44図	340	H-4,7	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	341	H-7	IV	口縁～胴部	にぶい褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	342	H-5	IV	口縁～胴部	にぶい褐	明黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	343	H-6	IV	口縁部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	344	H-6	IV	口縁～胴部	褐	黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	345	H-7	IV	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	346	H-4	IV	口縁～胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	347	H-6・7	IV	口縁～胴部	褐	暗褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	348	H-5,7	IV	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○				良	条痕文	ナデ	指圧痕(外面)
	349	H-7	IV	口縁部	灰オリーブ	黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
第45図	350	H-6・7	IV	口縁～胴部	にぶい赤	赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	351	H-7	IV	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	352	H-6・7	IV	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	353	H-6	IV	口縁部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	口唇刻目
	354	H-7	IV	口縁部	明赤褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	355	H-6・7	Ⅲ・Ⅳ	口縁部	赤褐	赤褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	356	H-6	IV	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)	ナデ	口唇刻目
	357	H-6	IV	口縁部	黄褐	にぶい黄	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	358	H-6	IV	口縁部	褐	褐	○	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	359	H-6	IV	口縁部	にぶい褐	灰褐	○	○				良	貝殻刺突文(斜位)条痕文	ナデ	口唇刻目
第46図	360	H-6	IV	口縁部	明褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻刺突文(縦位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	361	H-7	IV	口縁部	灰褐	褐	○	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	口唇刻目
	362	H-7	IV	口縁部	オリーブ褐	暗灰黄	○	○				良	貝殻刺突文(横位)条痕文	ナデ	口唇刻目
	363	H-5・6	IV	口縁部	橙	橙	○	○				良	貝殻刺突文(縦位)	ナデ	口唇刻目
	364	H-7	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○				良	貝殻刺突文(横位・斜位)	ナデ	口唇刻目
	365	H-7	IV	口縁部	にぶい明赤褐	暗オリーブ褐	○	○				良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	口唇刻目
	366	H-7	IV	口縁～胴部	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○				良	竹管文・条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	367	H-7	IV	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	竹管文・条痕文	ナデ	口唇刻目
	368	H-6	IV	口縁～胴部	にぶい黄褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文(羽状)ナデ消し後条痕文	ナデ	口唇刻目
	369	H-6	IV	胴部	浅黄	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻刺突文(羽状)ナデ消し後条痕文	ナデ	口唇刻目
第47図	370	H-6・7	IV	胴～底部	黄褐	明褐	○	○	○			良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	371	G・H-6	Ⅲ	胴～底部	暗褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	372	H-6・7	Ⅳ・Ⅴ	胴～底部	暗褐	暗褐	○	○	○			良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	373	H-7	IV	胴～底部	灰褐	橙	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	374	H-6	IV	胴～底部	黒褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	375	H-6	IV	底部	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	376	H-7	IV	底部	にぶい赤褐	赤褐	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	377	H-6・7	IV	底部	にぶい黄橙	橙	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	378	H-6	V	底部	明褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	379	H-7	IV	底部	灰黄褐	灰黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
第48図	380	H-7	IV	底部	赤褐	赤褐	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	381	H-5・6	IV	胴～底部	明赤褐	褐	○	○	○			良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目
	382	H-7	IV	底部	暗褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	383	H-6	IV	底部	明赤褐	明赤褐	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	384	H-7	IV	底部	にぶい褐	明褐	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	385	H-5	IV	底部	黒褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
	386	H-6	IV	底部	暗褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	指圧痕(内面)
	387	H-6	IV	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	指圧痕(内面)
	388	H-6・7	IV	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	口唇刻目
	389	H-6	IV	底部	橙	橙	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目
390	H-6・7	IV	底部	にぶい橙	黄褐	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	口唇刻目	
391	H-6	IV	底部	にぶい褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	口唇刻目	
392	H-6	IV	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目	
393	H-6	IV	底部	褐	橙	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目	
394	H-6	IV	底部	にぶい黄褐	にぶい黄	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	指圧痕(内面)	
395	H-6	IV	底部	明黄褐	橙	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	口唇刻目	
396	I-4	IV	底部	明赤褐	橙	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	口唇刻目	
397	H-6	IV	底部	にぶい黄	暗灰黄	○	○				良	ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目	
398	H-6	IV	底部	黒褐	褐	○	○				良	貝殻条痕文	ナデ	口唇刻目	
399	H-7	IV	底部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目	
400	H-5	IV	底部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○				良	貝殻条痕文(綾杉状)ヘラによる沈線	ナデ	口唇刻目	
401	H-6	IV	底部	明褐	橙	○	○				良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	指圧痕(内面)	

VI類土器 (第49図)

VI類土器は、貝殻刺突文を器面全面に施すものである。刺突文は斜位に施され綾杉状になる部分も見られる。402は山形になる口縁部で補修孔を有する。

403は胴部。404～406は底部である。406は規則制のある貝殻刺突文で、ヘラによる縦位の沈線文を施すものである。

VII類土器 (第49図)

VII類土器はヘラによる刺突文を鋸歯状に施すものである。407・408は胴部である。

VIII類土器 (第49図)

VIII類土器は貝殻条痕文を施すものであるが、縦位の流水文と横位の直線文が施される。409～411は胴部。412は底部である。

IX類土器 (第49図)

IX類土器は貝殻条痕文を口縁部から胴部上位にか

けて横位に廻らすものである。413は口縁部径17cmを測るものである。414は胴部下半部から底部にかけてのものであるが、横位の貝殻条痕文の下から底部へかけて縦位の貝殻条痕文を施すものである。

X類土器 (第49図)

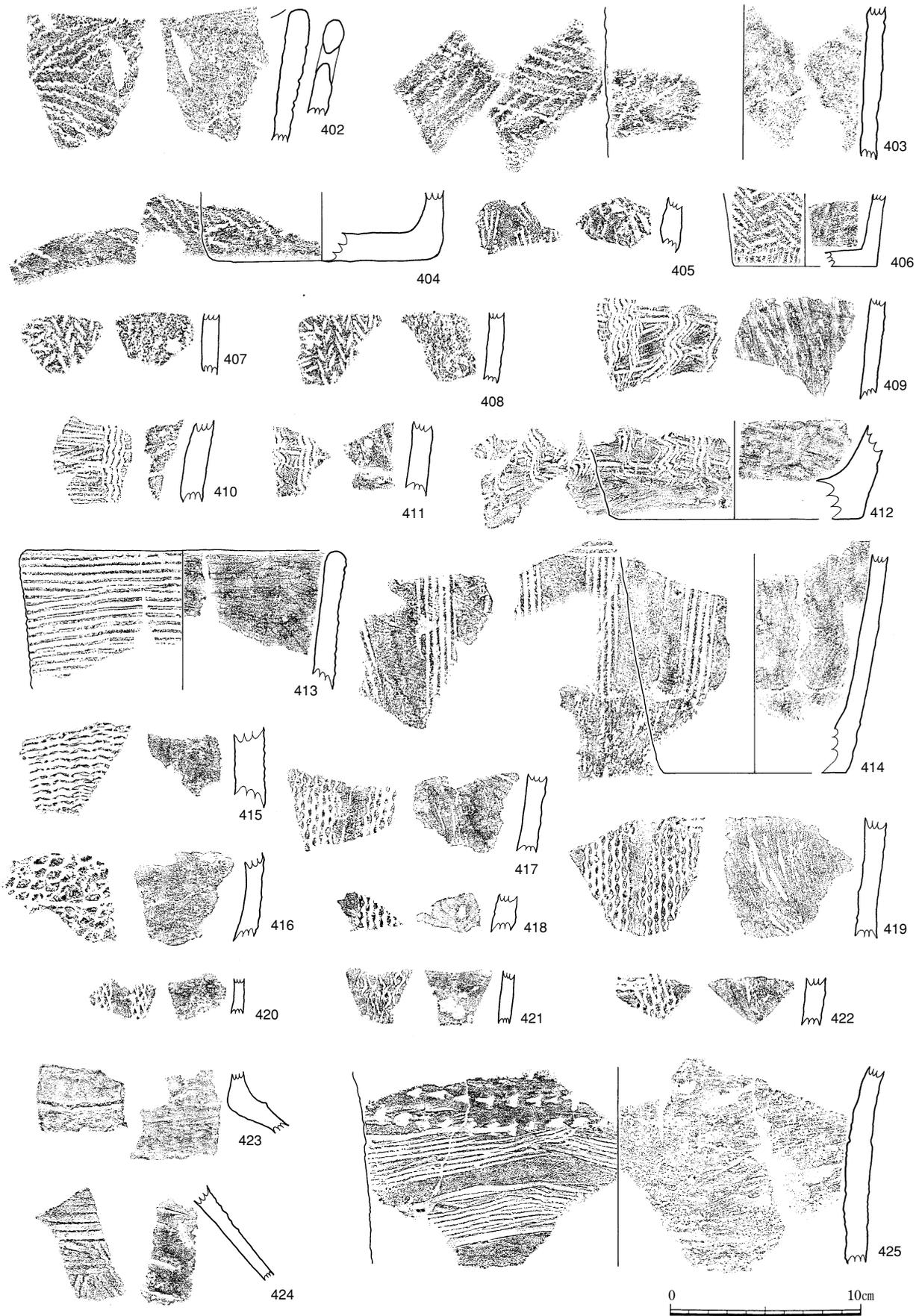
X類土器は押型文土器である。415は山形押型文。416～419, 422は楕円押型文である。417～419は同一個体と思われるもので、楕円押型文を縦に施した後一部をナデ消して無文帯を形成している。

XI類土器 (第49図)

XI類土器は420・421, 423～425である。420・421は網目燃糸文を縦位に施す。423・424は頸部及び肩部に微粒突帯を廻らすもので、壺形土器になるものである。425は頸部に貝殻刺突文を廻らし、胴部には区画内に貝殻条痕を施すものである。

VI～XI類土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第49図	402	H-11	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅵ	補修孔
	403	H-11	Ⅳ	胴部	褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅵ	
	404	H-11	Ⅳ	底部	赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅵ	
	405	J-7	Ⅳ	胴部	黒褐	暗灰黄	○	○			良	貝殻刺突文	ケズリ	Ⅵ	
	406	H-7	Ⅳ	底部	にぶい褐	灰黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅵ	
	407	H-6	Ⅳ	胴部	オリーブ褐	にぶい橙	○	○			良	ヘラ沈線(鋸歯状)	ナデ	Ⅶ	
	408	H-6	Ⅳ	胴部	暗灰黄	にぶい橙	○	○			良	ヘラ沈線(鋸歯状)	ナデ	Ⅶ	
	409	J-7	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅶ	
	410	J-8	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	411	J-8	Ⅳ	胴部	褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	412	J-8	Ⅳ	底部	明褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	413	H-11	Ⅳ	口縁部	明赤褐	黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅸ	
	414	H-11	Ⅳ	胴～底部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅸ	
	415	J-5	Ⅳ	胴部	暗灰黄	明黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	X	
	416	J-8	Ⅳ	胴部	にぶい黄	橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	X	
	417	J・K-10	Ⅳ	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	楕円押型文	ケズリ後ナデ	X	
	418	J-10	Ⅲ	胴部	褐灰	褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	X	
	419	J-10	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	楕円押型文	ケズリ後ナデ	X	
	420	K-4	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	網目燃糸文	ナデ	XI	
	421	G-7	Ⅳ	胴部	黄褐	明褐	○	○			良	網目燃糸文	ナデ	XI	
	422	J-10	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	X	
	423	G-7	Ⅳ	頸部	橙	橙	○	○			良	微粒突帯	ナデ	XI	壺
	424	H-6	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	微粒突帯	ナデ	XI	壺
	425	J-5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄	○	○			良	区画内条痕	ケズリ	XI	



第49図 VI・VII・VIII・IX・X・XI類土器

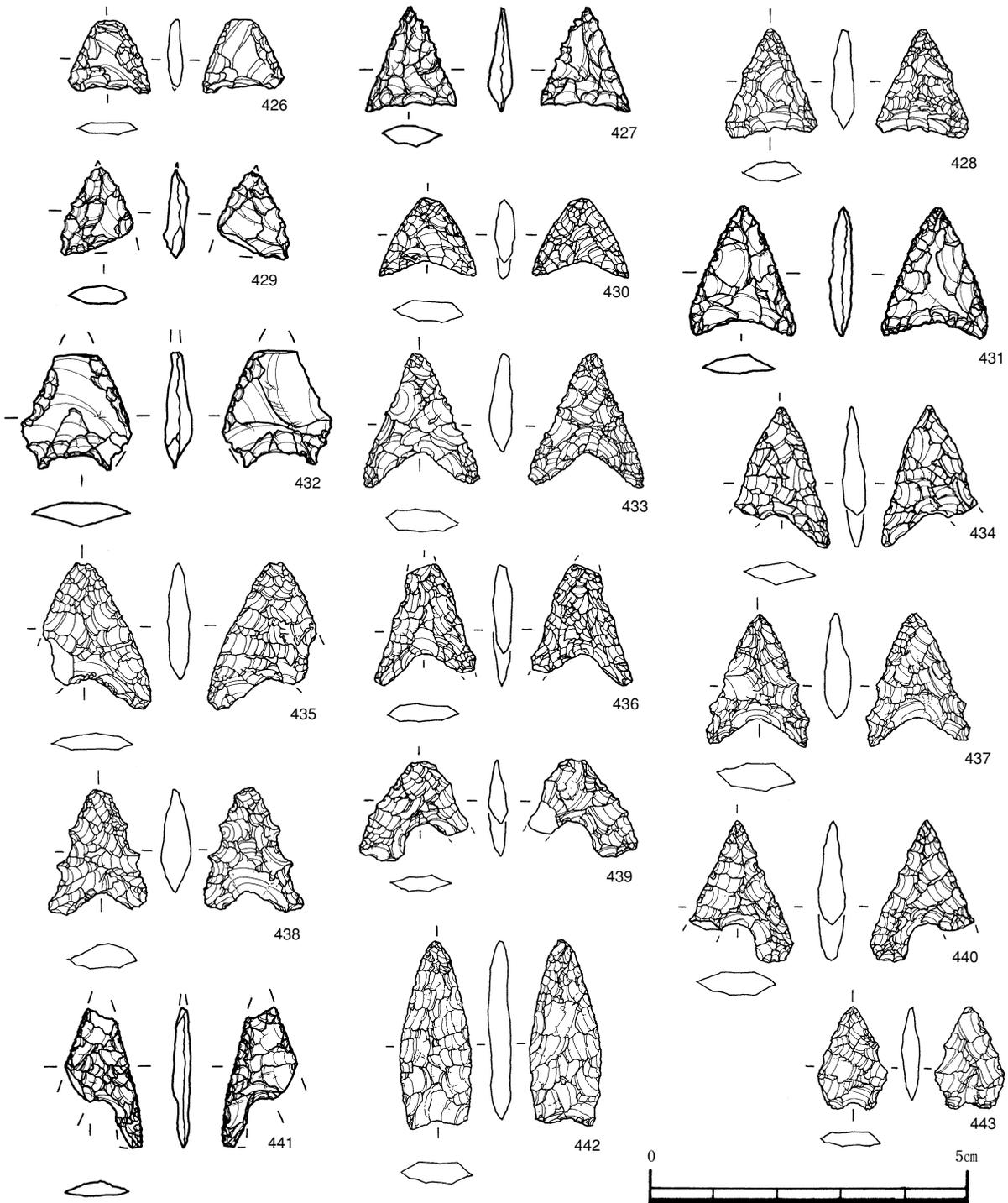
(2) 石器 (第50図～第59図)

石器は石鏃・石斧・スクレイパー・礫器・磨石・
 敲石・凹石・砥石状石器・石皿等が出土している。

石鏃 (第50図)

石鏃は18点が出土している。素材は黒曜石・頁
 岩・チャート・玉髄等である。農業開発総合センタ
 ー遺跡群の統一した分類 (21頁・第13図) で見ると、

426～428はA-a-a類, 429～432はA-a-b類,
 433～438はA-a-c類, 439・440はA-a-d類,
 442はA-c-d類, 443はC-c-d類, 441は
 B-a-b類に分類される。437・438は剥離が強く
 鋸歯状を呈する。いずれも両面交互剥離による丁寧
 な作りであるが, 438は剥離面を大きく残している。



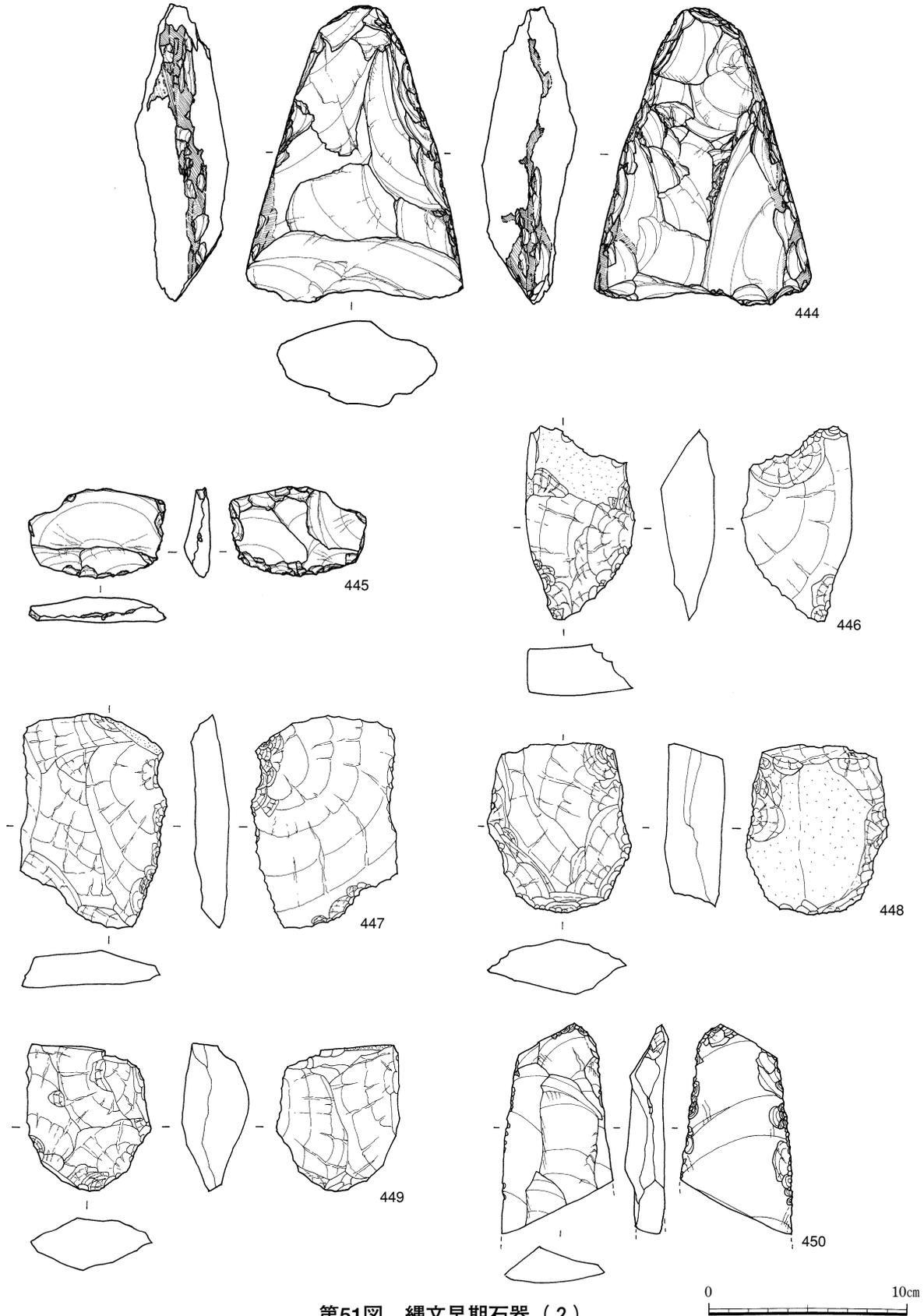
第50図 縄文早期石器 (1)

石斧 (第51図)

444は石斧である。刃部を欠損するやや大型の打製石斧でバチ形を呈する。両面の一部及び側面には研磨痕が認められる。頁岩を素材とする。

スクレイパー (第51図・第52図)

スクレイパーは8点出土しているがほとんどが頁岩を素材とするものである。445は横長剥片で両面交互剥離による刃部を作る。446は片面の剥離であ



第51図 縄文早期石器 (2)

る。447は側面に刃部を有する。448は両側面に粗い剥離の刃部を有する。450は縦長剥片の素材を利用し、側面に細かな剥離を施す。451・452は礫器に近いものである。

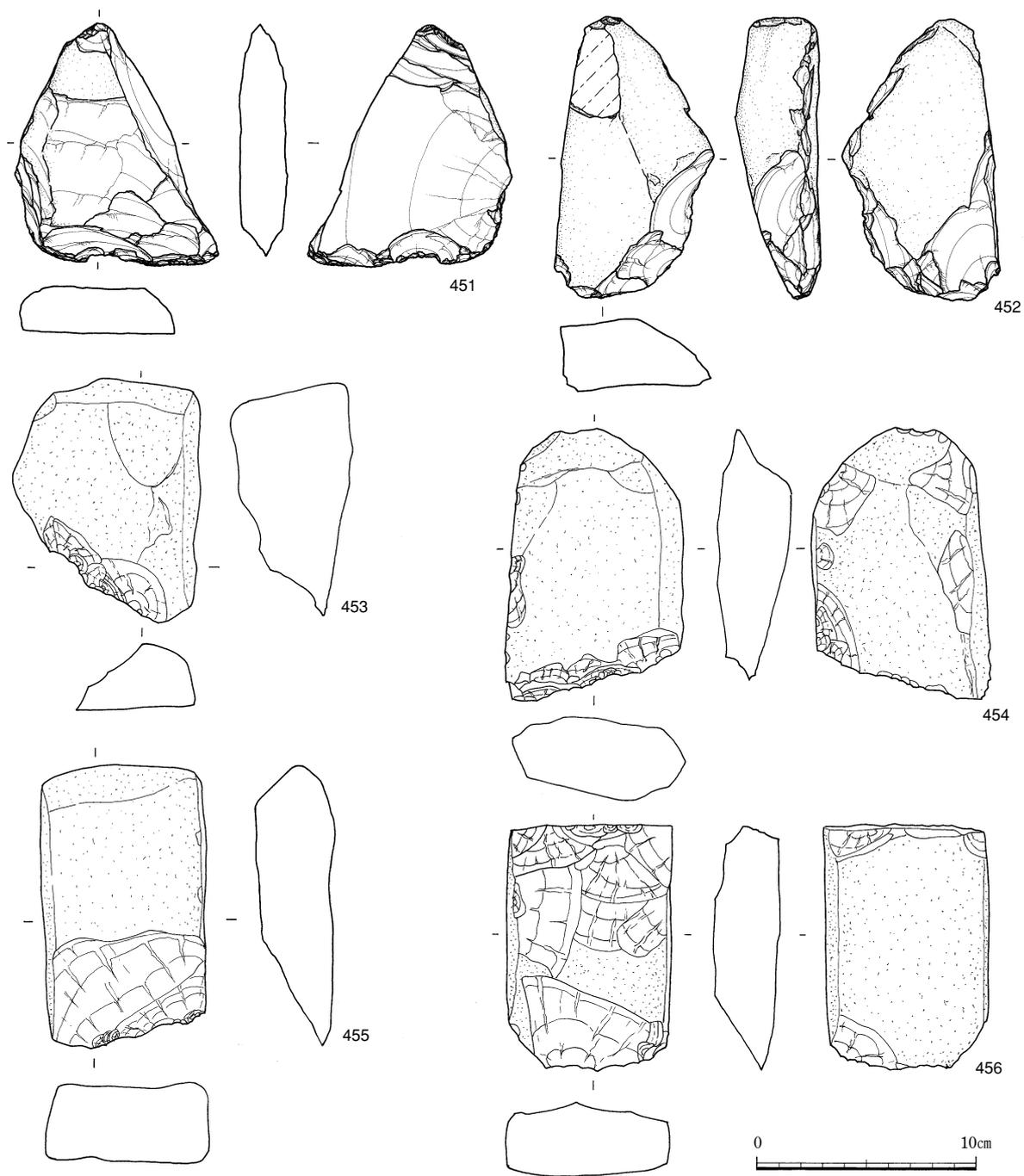
礫器 (第52図・第53図)

礫器は自然礫の一部を粗い剥離により刃部とするもので7点が出土している。頁岩・砂岩・安山岩を

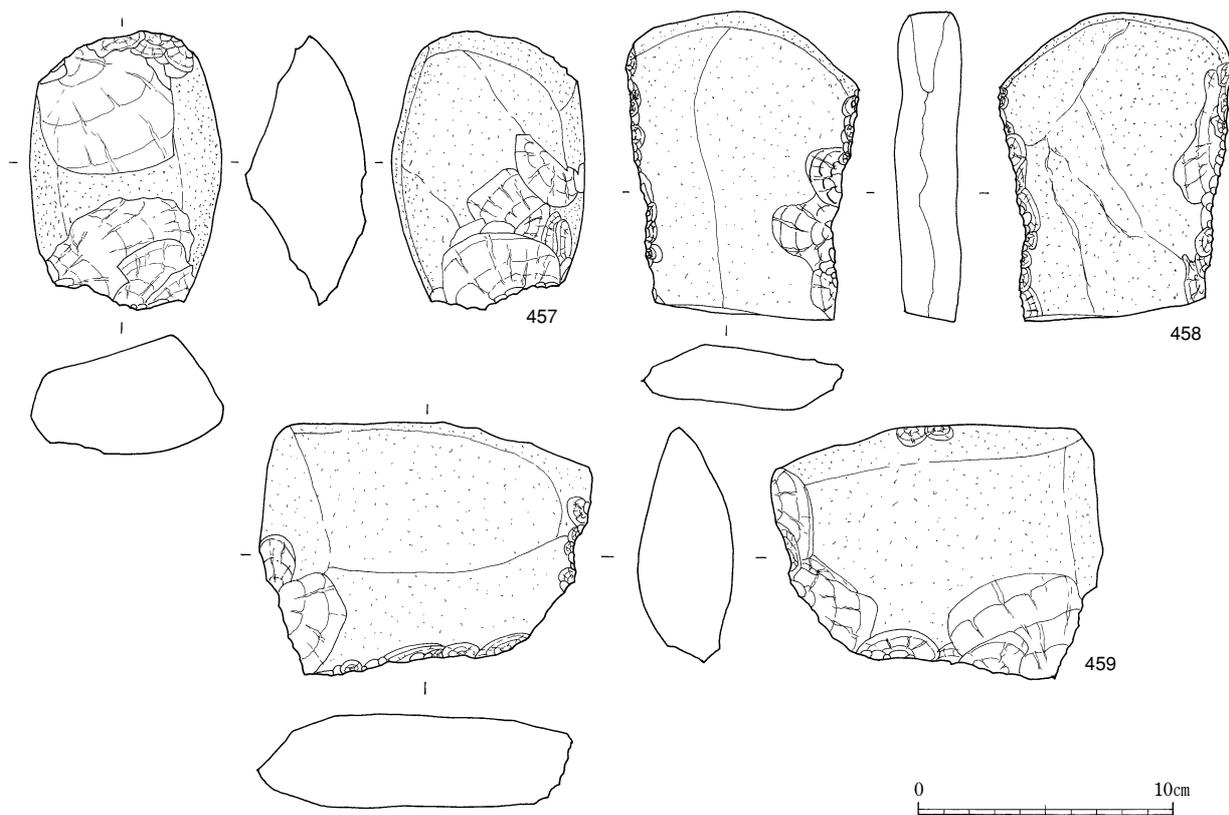
素材とする。453～457は縦長で下辺に刃部を有する。458は両側面に刃部を有する。459は横長で片側面と下辺に刃部を有する。

磨石 (第54図～第57図)

磨石としたものには28点が見られるが、磨石だけの機能をもつもの(460～476)。磨石と敲石の機能を持つもの(477～479)。磨石と凹石の機能をもつ



第52図 縄文早期石器 (3)



第53図 縄文早期石器（4）

縄文時代早期石器観察表 1

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第 50 図	426	剥片	H-7	Ⅳ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.20	1.30	0.20	0.31	
	427	打製石鏃	J-13	Ⅷ	頁岩	1.70	1.40	0.40	0.50	
	428	打製石鏃	H-7	Ⅳ	黒曜石(三船)	1.75	1.50	0.35	0.62	
	429	打製石鏃	I-12	Ⅷ	黒曜石(上牛鼻)	(1.40)	(1.10)	0.30	0.50	
	430	打製石鏃	—	—	頁岩	1.20	1.50	0.35	0.40	
	431	打製石鏃	K-5	Ⅷ	珪質頁岩	2.10	1.70	0.40	1.10	
	432	打製石鏃	J-11	Ⅳ	黒曜石(上牛鼻)	(1.90)	1.70	0.40	1.10	
	433	打製石鏃	I-5	Ⅳ	玉髓	2.10	1.80	0.40	0.76	
	434	打製石鏃	H-6	Ⅳ	頁岩	2.20	1.50	0.40	0.66	
	435	打製石鏃	H-6	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.35	1.60	0.35	0.89	
	436	打製石鏃	H-6	Ⅳ	黒曜石(針尾)	1.90	1.60	0.30	0.63	
	437	打製石鏃	H-7	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.10	1.60	0.45	0.82	
	438	打製石鏃	H-7	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.00	1.50	0.50	0.86	
	439	打製石鏃	H-6	Ⅳ	黒曜石(針尾)	1.60	1.70	0.30	0.52	
	第 51 図	440	打製石鏃	H-6	Ⅳ	チャート	2.30	1.60	0.50	0.96
441		打製石鏃	J-5	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.30	1.10	0.30	0.60	
442		打製石鏃	H-6	Ⅳ	頁岩	2.80	1.10	0.30	1.17	
443		打製石鏃	H-7	Ⅳ	玉髓	1.65	1.10	0.25	0.39	
444		打製石斧	J-8	Ⅳ	ホルンフェルス	15.15	10.95	4.75	667.00	
445		スクレイパー	J-8	Ⅳ	頁岩	6.90	4.50	1.30	40.03	
446		スクレイパー	H-7	Ⅳ	頁岩	9.60	5.40	2.60	151.00	
447		スクレイパー	H-6	Ⅳ	頁岩	10.70	7.00	1.70	166.50	
448		スクレイパー	H-6	Ⅳ	頁岩	8.40	6.90	2.65	227.50	
449		スクレイパー	H-6	Ⅳ	頁岩	7.20	6.00	3.20	184.50	
第 52 図	450	スクレイパー	J-8	Ⅳ	ホルンフェルス	(10.65)	(5.60)	2.00	117.10	
	451	スクレイパー	J-10	Ⅳ	頁岩	11.15	9.30	2.30	284.00	
	452	スクレイパー	H-13	Ⅷ	頁岩	12.70	6.70	4.00	375.00	
	453	礫器	H-4	Ⅳ	頁岩	10.80	8.40	5.40	555.40	
	454	礫器	H-4	Ⅳ	頁岩	11.80	8.00	3.30	429.50	
	455	礫器	H-15	Ⅳ	頁岩	12.80	7.90	4.10	640.40	
	456	礫器	H-7	Ⅳ	頁岩	11.20	7.40	3.30	439.00	
第 53 図	457	礫器	H-13	Ⅳ	頁岩	11.00	7.45	4.70	431.50	
	458	礫器	H-6	Ⅳ	砂岩	12.00	9.00	2.40	390.00	
	459	礫器	H-5	Ⅳ	安山岩	10.00	12.70	3.70	650.00	

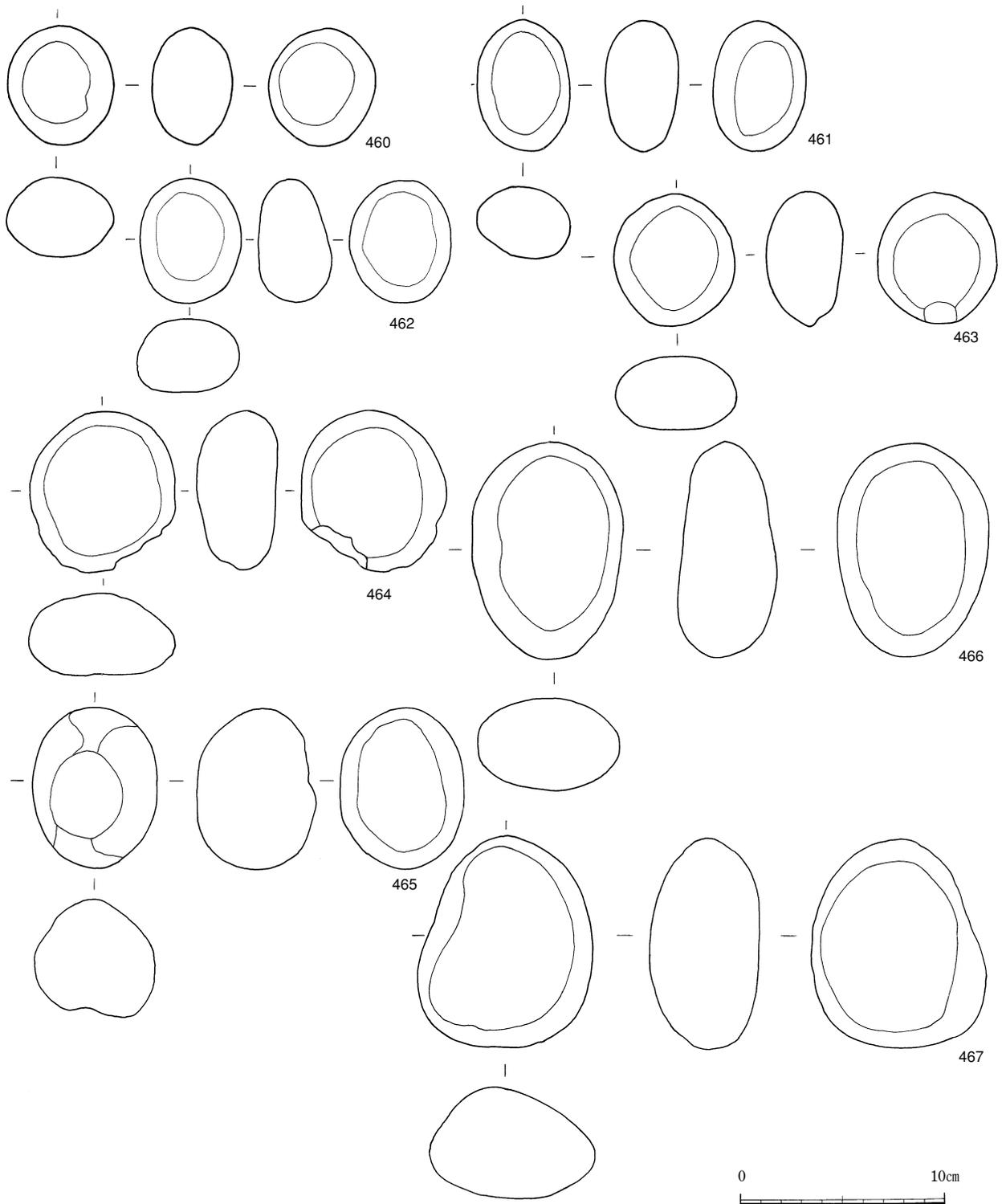
もの（480～487）がある。素材は砂岩及び安山岩である。477は上辺に敲打痕が見られる。

478・479は上辺から側面の一部にかけて敲打痕が見られる。480～482は片面に凹みがあり，483～486は両面に凹みがある。また，487は片面に凹みがあ

り，側面には敲打痕が見られるものである。

砥石（第57図）

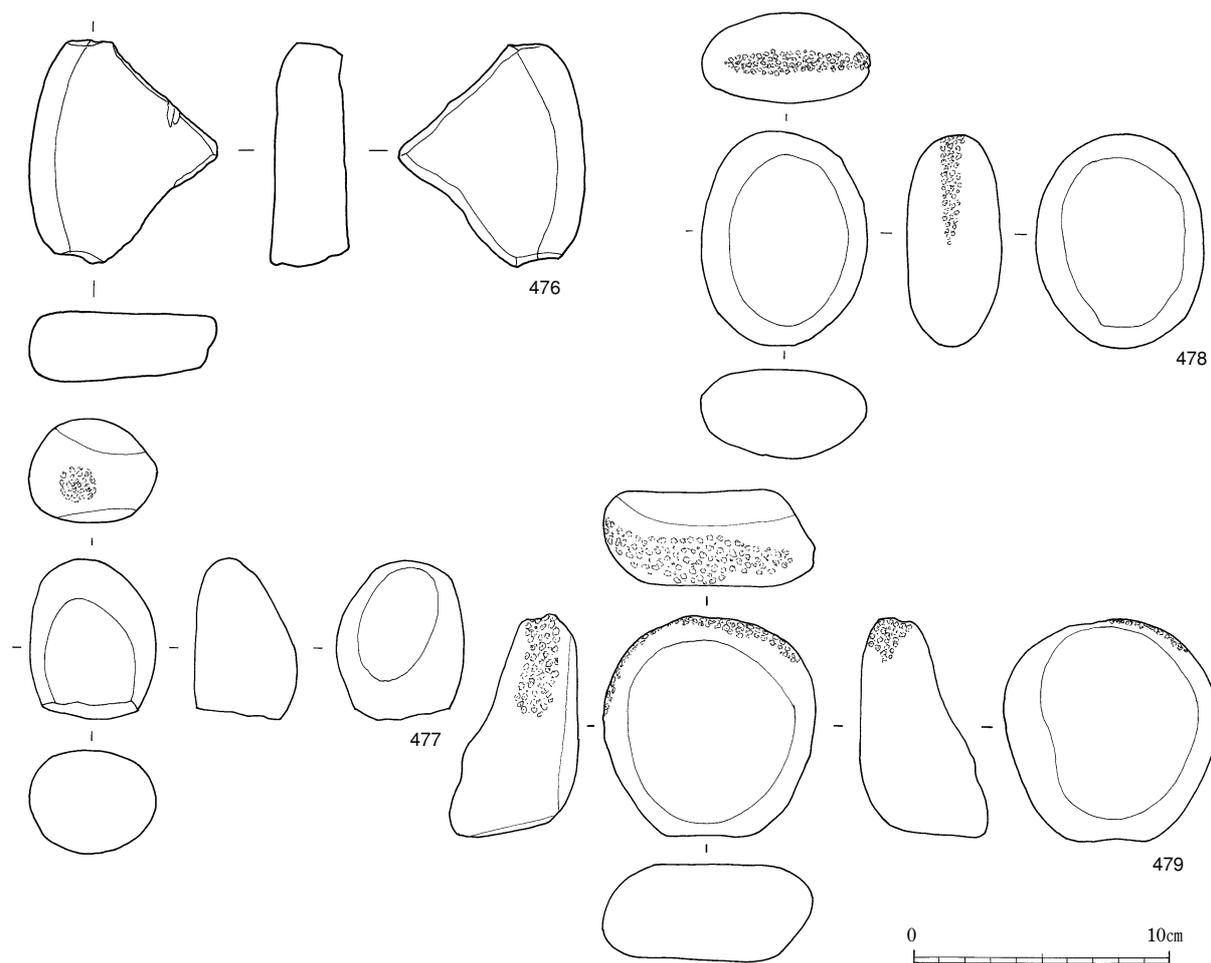
砥石としたものは1点だけである。488は砂岩を素材とした扁平な礫で，表面に著しい研磨の痕跡が認められる。



第54図 縄文早期石器（5）



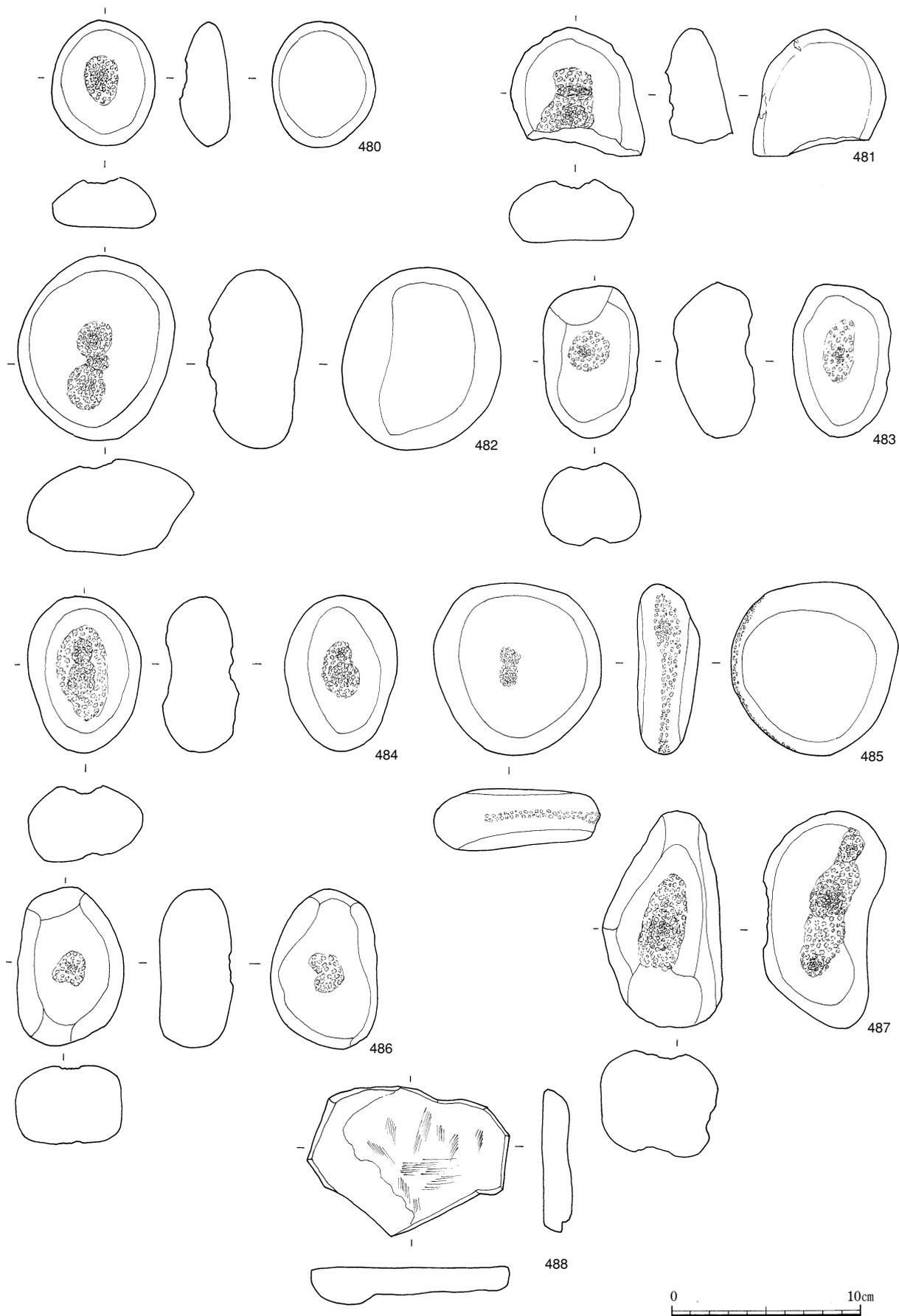
第55図 縄文早期石器 (6)



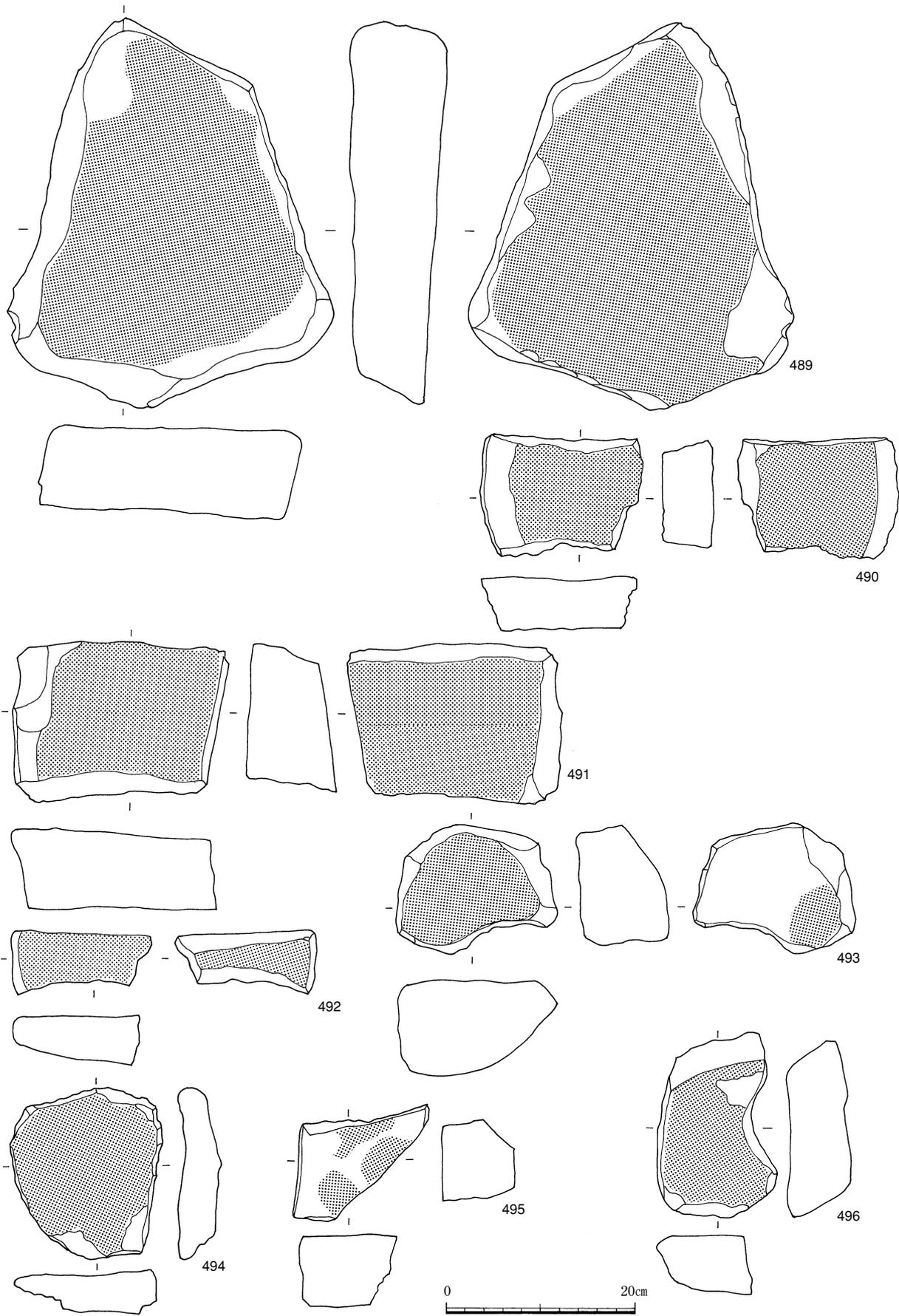
第56図 縄文早期石器（7）

縄文時代早期石器観察表 2

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第 54 図	460	磨石	H-6	Ⅳ	安山岩	5.85	5.20	4.00	149.00	
	461	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	6.45	4.50	3.50	128.40	
	462	磨石	I-5	Ⅶ	砂岩	6.10	5.00	3.60	157.50	
	463	磨石	H-7	Ⅳ	砂岩	6.55	5.80	3.60	185.00	
	464	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	7.90	7.15	3.95	295.50	
	465	磨石	H-11	Ⅳ	砂岩	7.90	6.00	5.90	340.00	
	466	磨石	H-7	Ⅳ	砂岩	10.60	7.30	4.80	496.00	
第 55 図	467	磨石	J-8	Ⅳ	砂岩	10.04	8.50	5.35	568.50	
	468	磨石	H-5	Ⅳ	安山岩	11.30	10.45	2.90	572.50	
	469	磨石	—	V	砂岩	13.00	8.70	4.80	739.50	
	470	磨石	H-13	Ⅳ	保留	12.01	8.05	6.40	868.00	
	471	磨石	H-5	Ⅳ	砂岩	4.75	6.55	3.50	144.50	
	472	磨石	H-14	Ⅳ	砂岩	6.40	8.15	2.50	132.50	
	473	磨石	H-6	Ⅳ	安山岩	3.00	8.50	5.50	167.00	
第 56 図	474	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	4.70	7.60	3.70	150.00	
	475	磨石	H-7	Ⅳ	安山岩	3.50	8.80	4.60	184.00	
	476	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	8.80	7.30	2.70	233.00	
	477	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	6.30	4.95	4.20	166.50	
	478	磨石	G-13	Ⅳ	砂岩	8.40	6.55	3.60	272.00	
	479	磨石	J-4	Ⅳ	砂岩	8.70	8.30	4.55	477.00	



第57図 縄文早期石器 (8)

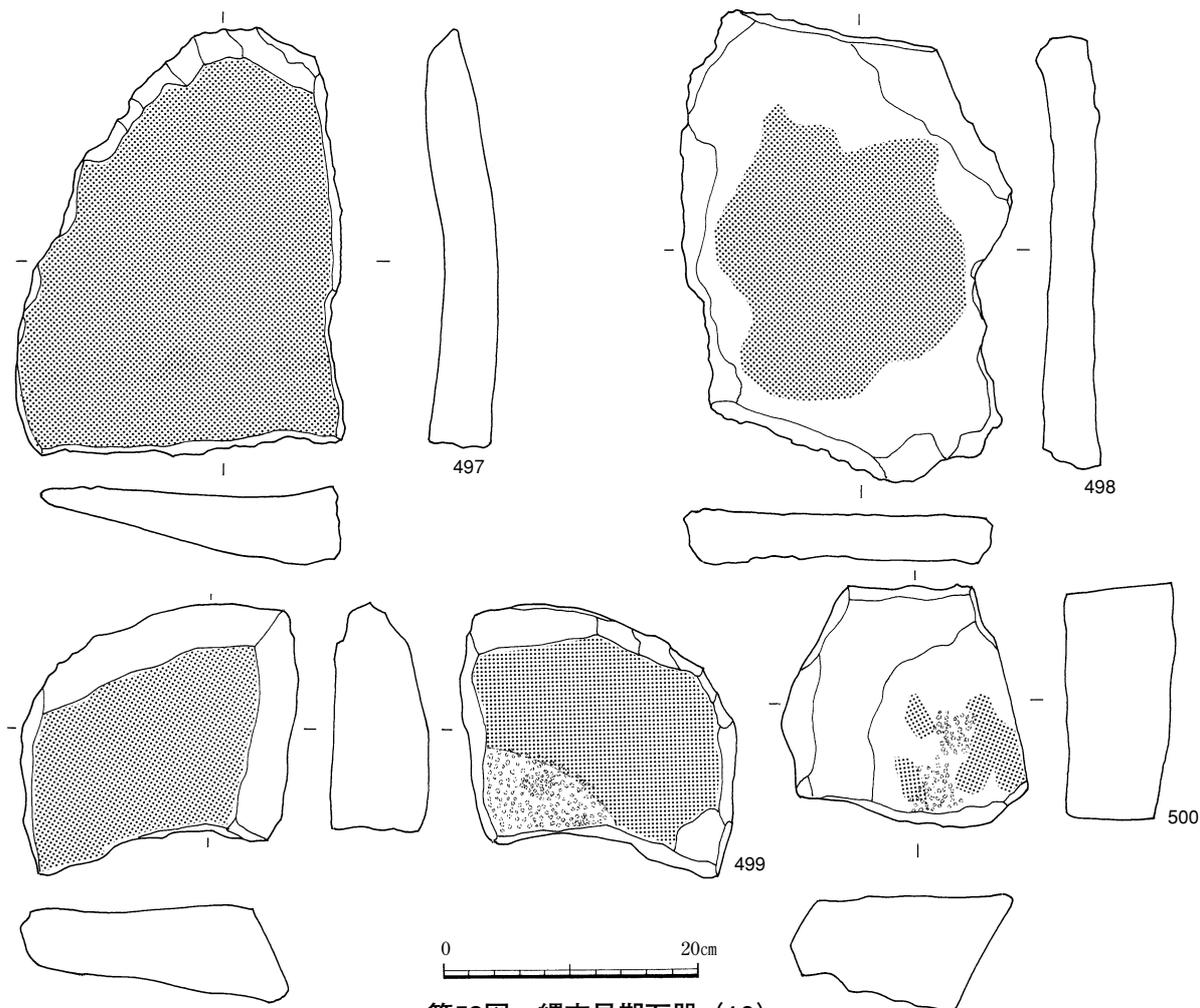


第58図 縄文早期石器 (9)

石皿（第58図・第59図）

石皿は12点出土している。素材は安山岩・砂岩・花崗岩である。磨耗した作業面が両面にあるもの

(489～493, 499) と片面のもの (494～498, 500) がある。499・500は作業面の一部に敲打された痕跡が認められる。



第59図 縄文早期石器 (10)

縄文時代早期石器観察表3

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第57図	480	磨石	J-8	Ⅳ	砂岩	6.65	5.45	2.65	127.00	
	481	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	6.25	6.70	3.50	205.00	
	482	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	9.80	8.10	5.10	505.50	
	483	磨石	—	Ⅳ	砂岩	8.20	5.50	4.10	239.50	
	484	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	8.30	6.00	3.30	262.50	
	485	磨石	H-6	Ⅳ	砂岩	9.20	8.80	3.20	363.50	
	486	磨石	G-13	Ⅳ	砂岩	8.40	5.55	4.15	335.00	
	487	磨石	H-5	Ⅳ	安山岩	11.60	6.20	6.30	582.00	
第58図	488	砥石	H-13	Ⅳ	砂岩	8.00	10.60	2.00	176.00	
	489	石皿	H-5	Ⅳ	砂岩	41.00	34.40	9.20	196.00	
	490	石皿	H-6	Ⅳ	花崗岩	12.80	16.80	5.60	1940.00	
	491	石皿	H-6	Ⅴ	安山岩	16.80	21.80	9.80	6120.00	
	492	石皿	H-5	Ⅴ	砂岩	6.80	14.90	5.25	575.00	
	493	石皿	—	—	花崗岩	13.70	17.10	10.00	2900.00	
	494	石皿	H-6	Ⅳ	花崗岩	18.20	16.00	4.60	1540.00	
	495	石皿	—	—	安山岩	10.70	13.20	9.90	1325.50	
第59図	496	石皿	—	—	砂岩	19.00	12.80	6.50	2215.50	
	497	石皿	H-7	Ⅳ	安山岩	32.70	25.20	5.70	5400.00	
	498	石皿	—	—	安山岩	36.80	25.70	4.90	4900.00	
	499	石皿	H-7	Ⅳ	砂岩	18.80	21.00	8.00	4550.00	
	500	石皿	H-7	Ⅳ	砂岩	19.10	18.20	8.85	4600.00	

2 縄文時代後期の調査成果

縄文時代後期では土器が1点出土したのみで、遺構は検出されなかった。501はⅫ類土器としたものである。口縁端部を欠損するが、断面が三角形状に肥厚するものである。



第60図 Ⅻ類土器

横位の凹線文と凹線文の間にヘラ状施文具による刺突文が施されている。また、その下位にヘラによる刻目が施されている。内面は貝殻条痕が見られる。

3 縄文時代晩期の調査成果

(1) 遺構 (第61図)

晩期の遺構は上部の層が削平されていることもあって少ない。I-14区、J-13区において、農業開発総合センター遺跡群においてよく見られる柱穴列(柱穴が3~6個一列に並んでいる)が3基検出されたのみである。

1号柱穴列 (第61図)

I-14区において検出されたもので、4個の柱穴からなる。主軸はほぼ南北方向でN-18度-Wである。全長4.4mで、各柱穴間はほぼ1.3mである。柱穴の径は柱穴1は12cm、柱穴2~4は16cmと小さめである。深さは0.2~0.4mで不揃いである。埋土は黒褐色土で堅く中世の掘立柱建物跡の柱穴の埋土とは色調共合わせて判別可能である。

2号柱穴列 (第61図)

I-14区において検出されたもので、3個の柱穴からなる。主軸はほぼ南北方向でN-28度-Wである。全長4.3mで、各柱穴間はほぼ2mである。柱穴の径は柱穴は20cm、深さは30~36cmである。埋土は柱穴列1号と同様である。

3号柱穴列 (第61図)

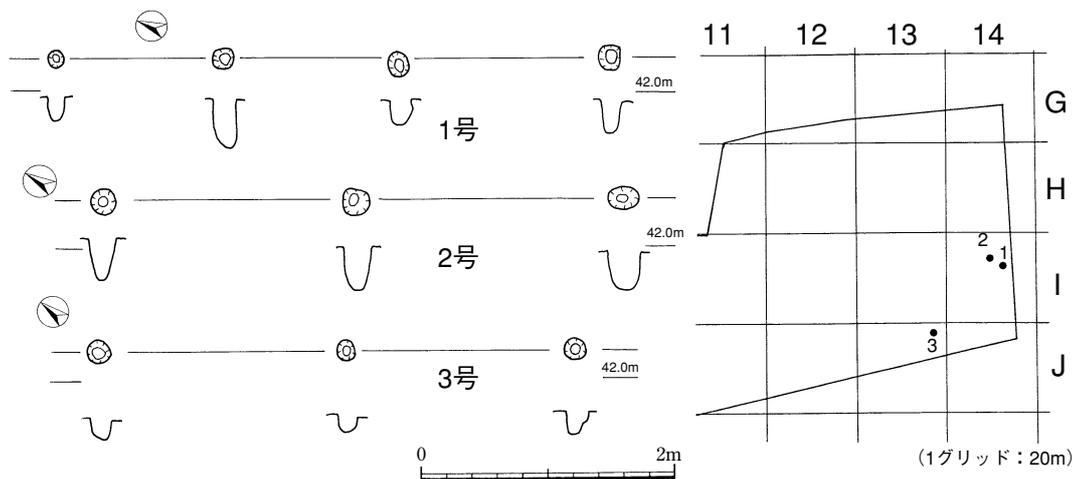
J-13区において検出されたもので、3個の柱穴からなる。主軸はほぼ南北方向でN-32度-Wである。全長3.9mで、各柱穴間はほぼ1.9mである。柱穴の径は柱穴は18cm、深さは14~18cmと浅いが上層が削平されていることに起因するものと思われる。埋土は柱穴列1号・2号と同様である。

(2) 遺物 (第62図~64図)

遺物は土器と石器が出土しているが、出土量は多くない。

土器 (第62図)

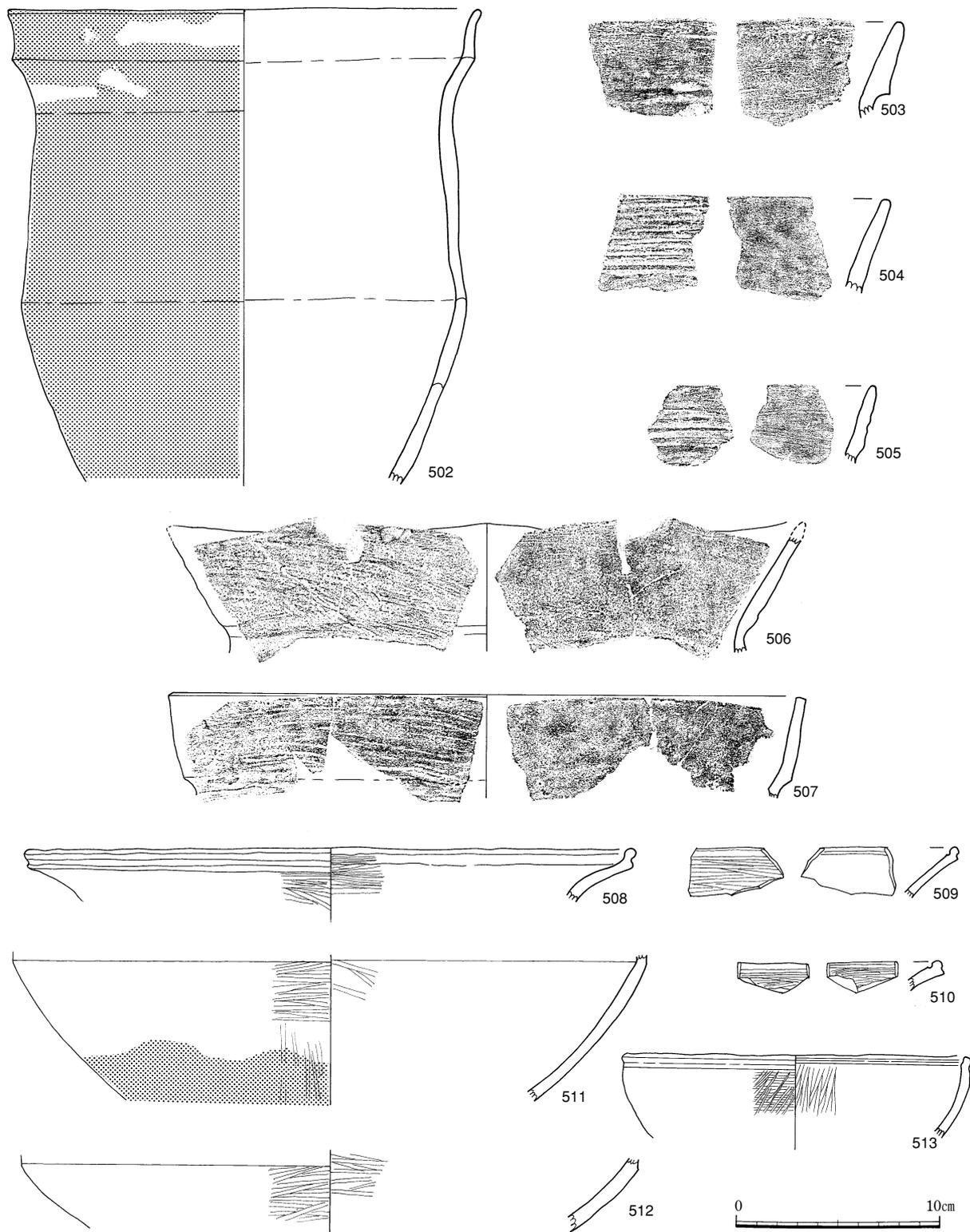
土器は深鉢形土器と浅鉢形土器合わせて12点を図化した。502~507は深鉢形土器、508~513は浅鉢形土器である。502は口縁部径23.2cmを測るものである。胴部の屈曲部は弱く、わずかに内傾して頸部へ到るもので、口縁部はやや外反し、端部は丸くおさめるものである。503~507は外反する口縁部である。503はやや肥厚するもの、506は口縁部が波状になるもの、507は口縁部が直行気味である。



第61図 縄文時代晩期柱穴列

508～513は精製浅鉢形土器である。508は口縁部径30cmを測るもので、509・510と同様に頸部の屈曲部から大きく外反する口縁部で、端部は上方へ短く立ち上げるものである。口縁部直下に沈線文を巡らし内面にも沈線文を廻らすものもある。511・

512は胴部の屈曲部から底部近くの部位で、わずかに丸みを帯びる。513は底部から内湾しながら口縁部へ到るもので、やや深目の浅鉢形土器である。口縁端部はわずかに外反するものである。



第62図 Ⅷ類土器

石器 (第63図・第64図)

石器は石鏃・石斧・礫器・磨石などが出土しているが、それぞれ出土量は多くない。

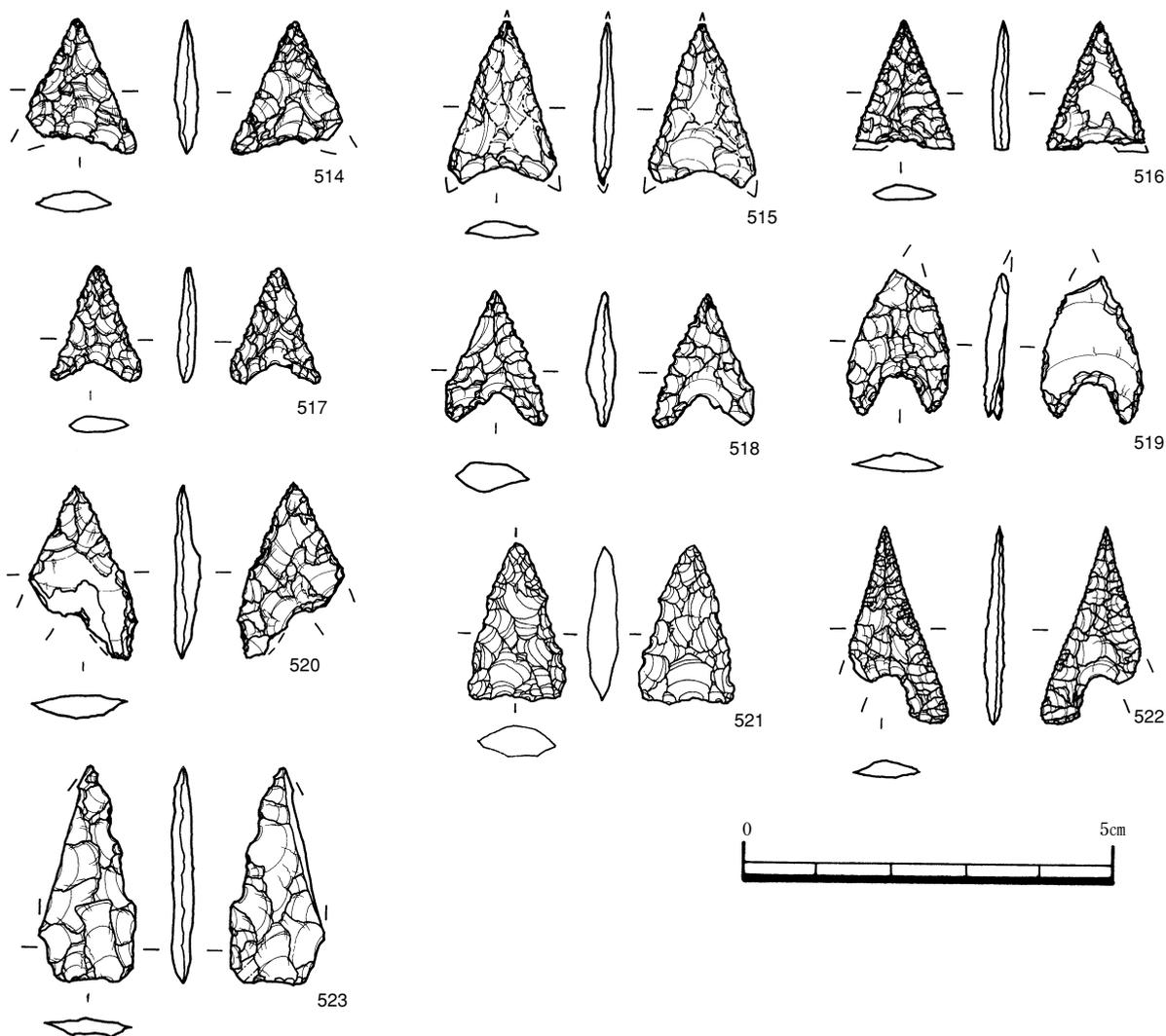
石鏃 (第63図)

石鏃は10点出土している。石材は黒曜石・頁岩・チャート・玉髄である。石鏃の分類については、本報告書での統一した分類図 (21頁・第13図) に従う

ことにする。514はA-a-bタイプ、515・516はA-a-bタイプ、517・518はA-a-cタイプ、519・520はA-a-dタイプ、521はA-b-aタイプ、522はA-b-dタイプ、523はA-c-aタイプに分類される。また、519は剥片石鏃と思われる。

XII・XIII類土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第63図	501	H-6	Ⅲ	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	横線文・刻目・条痕	貝殻条痕文	XII	
	502	K-5	Ⅳ(横転)	口縁~胴部	黄褐	明褐	○	○			良	ナデ	ナデ	XIII	内外面煤付着
	503	J-10	Ⅲ	口縁部	灰黄	浅黄	○	○			良	ナデ	ナデ	XIII	外面煤付着
	504	J-11	Ⅲ	口縁部	黒褐	暗褐	○	○			良	貝殻条痕文	ミガキ	XIII	
	505	I-16	Ⅲ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻条痕文	ミガキ	XIII	
	506	I-16	Ⅲ	口縁部	橙	明赤褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	XIII	
	507	H-6	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	XIII	
	508	I-16	Ⅲ	口縁部	黒	暗褐	○	○			良	沈線・ミガキ	ミガキ	XIII	
	509	H-16	Ⅲ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	沈線・ミガキ	沈線・ミガキ	XIII	
	510	H-16	Ⅲ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	沈線・ミガキ	沈線・ミガキ	XIII	
	511	H-7	Ⅲ	胴部	黄灰	にぶい黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	外面煤付着
	512	I-16	Ⅲ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	513	I-16	Ⅲ	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	沈線・ミガキ	沈線・ミガキ	XIII	



第63図 縄文晩期石器 (1)

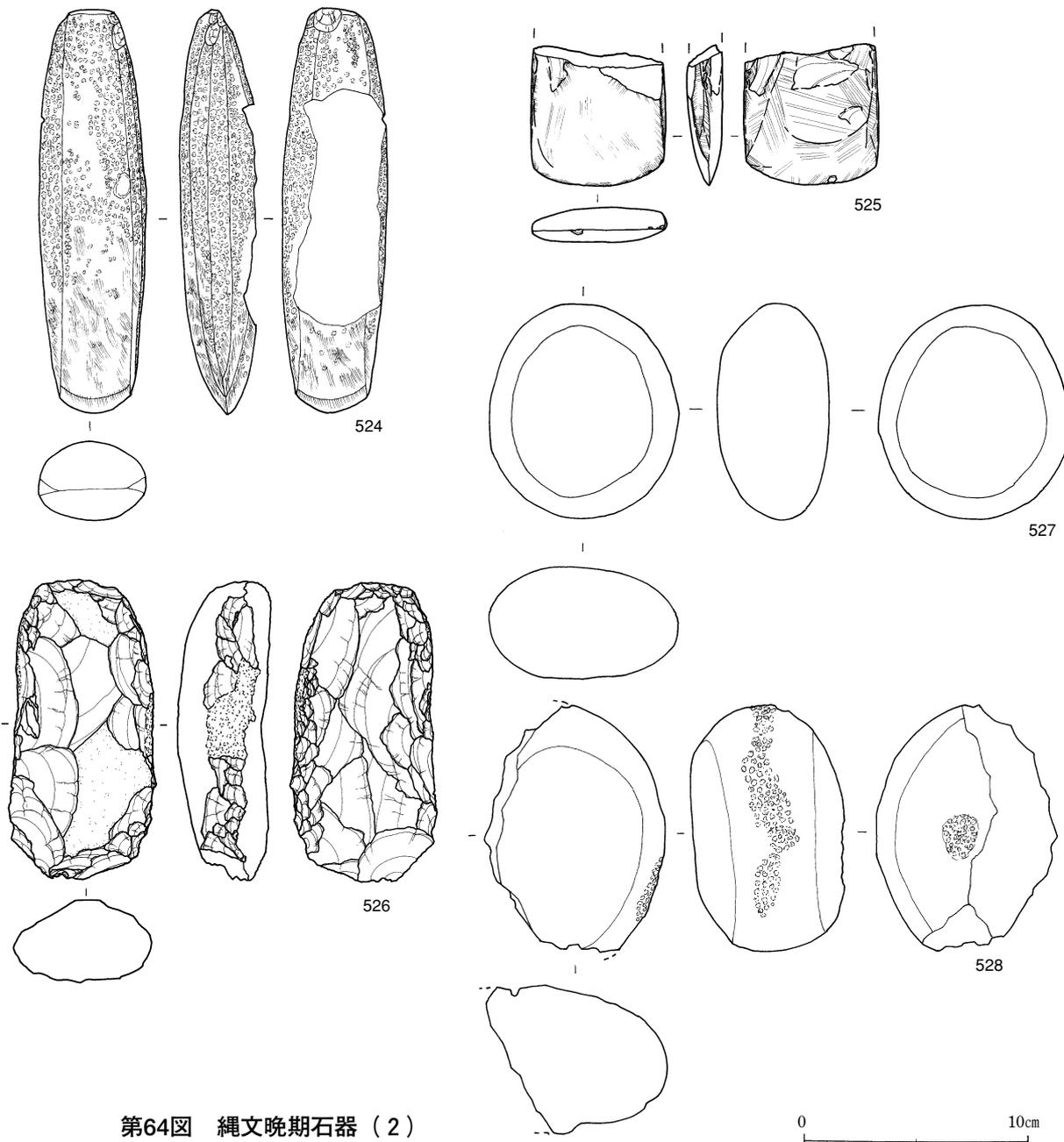
石斧・磨石（第64図）

石斧は3点が出土している。524は基部・中間部・刃部の3つに割れていたものが接合したものである。全面を丁寧な敲打整形をした後で刃部を中心に研磨が施される。やや細身の石斧である。525は

磨製石斧である。全面に丁寧な研磨が施されている。526は打製石斧である。粗い剥離が施される。527は磨石、528は磨石と凹石、敲石の機能を備えたものである。

縄文時代晩期石器観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考	
第63図	514	打製石鏃	H-6	IV	頁岩	1.80	1.50	0.30	0.50		
	515	打製石鏃	J-11	III	頁岩	2.20	1.40	0.30	0.70		
	516	打製石鏃	J-8	III	チャート	1.80	1.30	0.30	0.50		
	517	打製石鏃	I-4	III	玉髄	1.60	1.20	0.30	0.20		
	518	打製石鏃	H-16	III	黒曜石(針尾)	1.80	1.40	0.40	0.50		
	519	打製石鏃	J-10	III	安山岩	2.00	1.40	0.30	0.60		
	520	打製石鏃	J-11	III	黒曜石(針尾)	2.40	1.50	0.40	0.70		
	521	打製石鏃	H-6	III	チャート	2.10	1.30	0.50	0.87		
	522	打製石鏃	J-11	III	チャート	2.70	1.40	0.30	0.60		
	523	打製石鏃	J-11	III	頁岩	3.00	1.30	0.30	1.10		
	第64図	524	磨製石斧	J-10	III	安山岩	18.20	4.80	(3.50)	414.00	
		525	磨製石斧	H-6	表	ホルンフェルス	(6.35)	(6.05)	(1.65)	94.40	
		526	打製石斧	H-6	表	安山岩	13.35	6.65	4.15	500.00	
527		磨石	K-5	III	安山岩	9.70	8.45	4.90	582.00		
528		磨石	G-16	III	安山岩	10.85	8.00	6.70	451.00		



第64図 縄文晩期石器（2）

第6節 中世・近世の調査成果

1 遺構

遺構は、掘立柱建物跡1棟が検出されているが、隣接の市堀遺跡の掘立柱建物跡群と一連のものとして考えられるものである。市堀遺跡では7棟の掘立柱建物跡が検出されている。2006年刊行の報告書「農業開発総合センター遺跡群Ⅱ，馬塚松遺跡・市堀遺跡・大門口遺跡」の市堀遺跡で3号掘立柱建物跡として報告されているものである。

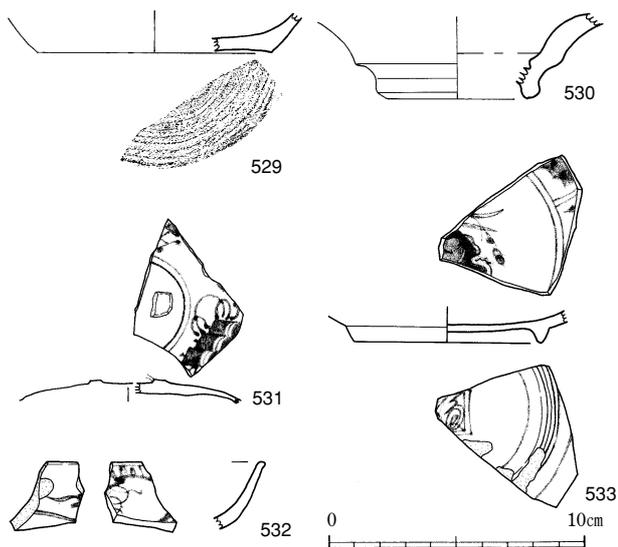
掘立柱建物跡は、2間×3間で主軸がほぼ東西方向である。東側・北側・西側に庇と思われる柱穴が見られるが、一部柱穴の無い部分がある。

2 遺物（第65図）

遺物は、土師器・青磁・磁器（染付）が出土しているが、5点と少ないものである。529は土師器の皿と思われる。底部は糸切り離しによるものである。

530は青磁碗である。531～533は染付である。

531は蓋で上面にはつまみがみられる。533は碗の底部で底面には「うず福」が描かれる。532は碗の口縁部である。



第65図 中・近世の遺物

第7節 小結

頭無迫田遺跡では旧石器時代から中世までの遺構・遺物が出土している。

旧石器時代では、ブロックが1箇所確認されている。また、落とし穴が1基検出されている。ブロック内ではチャートの礫の集積遺構も検出されている。また、接合資料も11例が確認されており、石器製作に係わるブロックと考えられる。石器はナイフ形石器・三稜尖頭器・台形石器・スクレイパー等が出土しているが、ナイフ形石器が小型化する新しい段階のものと思われる。

縄文時代早期では、集石遺構が10基検出されているが、どの型式の土器に伴うかは不明である。ただし質量共に他の型式を上回るV類（石坂式土器）に伴うものと考えたい。

土器型式でみるとI類土器からXI類土器まで11類に細分される。I類は前平式土器、II類は志風頭式土器、III類は加栗山式土器、IV類は吉田式土器、V類は石坂式土器、VI類は下剥峯式土器、VII類は辻タ

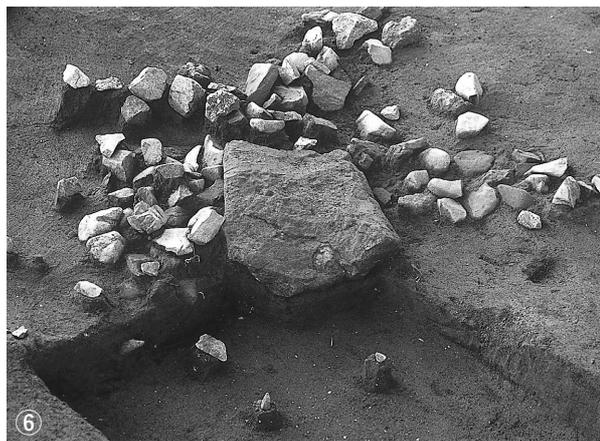
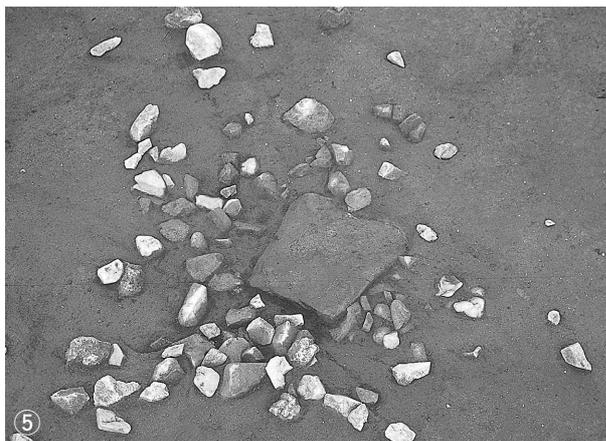
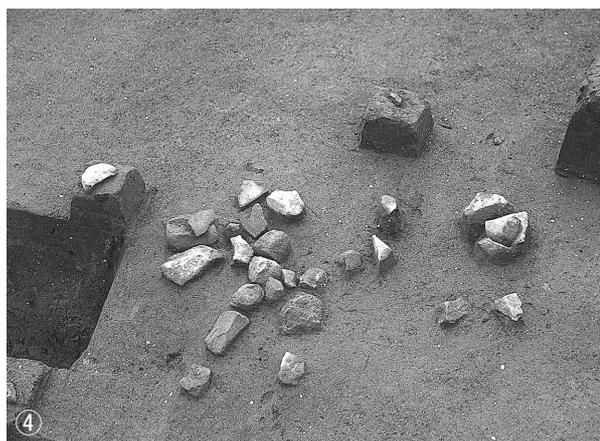
イブ、VIII類は桑ノ丸式土器に比定される。IX類は円筒系条痕文土器とされていたものであるが、木崎康弘による中原Ⅲ式・Ⅳ式土器に類似する。また、X類は押型文土器、XI類は塞ノ神式土器に比定されるものである。志風頭式土器には円筒土器の他に角筒土器及びレモン形土器も含まれる。加栗山式土器・吉田式土器にも角筒土器が含まれる。V類の石坂式土器は多量に出土しており、口縁部が外反するもの、直行気味のもの、こぶ状突起を有するもの等変化に富んでおり、細分される可能性を含んでいる。VI～XI類は数点ずつの出土である。XI類の中には壺形土器も見られる。

縄文時代後期では、XII類が市来式土器に比定されるが1点のみの出土である。

縄文時代晩期では、農業開発総合センター遺跡群でよく見られる柱穴列が3基検出されている。この遺構も用途・性格が不明なものであるが、なんらかの住居と考えたい。土器についてみるとXIII類とした粗製の深鉢形土器と精製黒色研磨の浅鉢形土器が見られるが、出土量は少ないものである。入佐式土器に比定出来よう。

註1 熊本県文化財調査報告書第158集「蒲生・上の原遺跡」熊本県教育委員会1996年

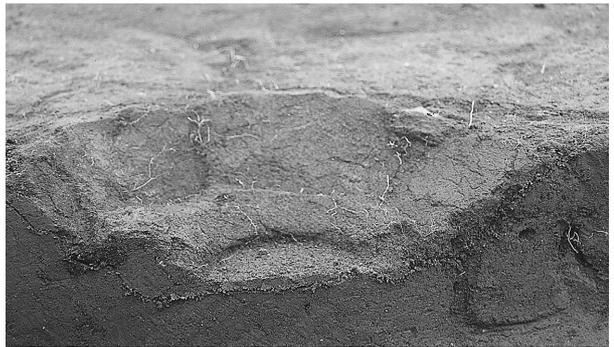
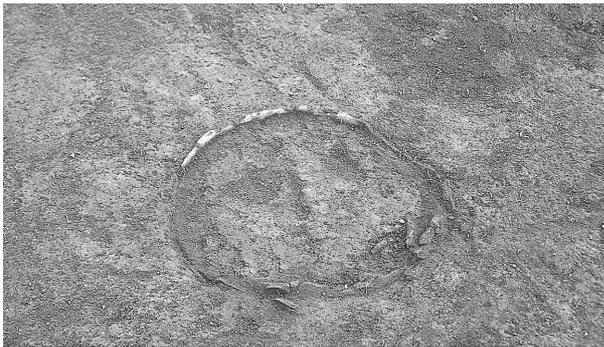
写 真 图 版



①遺跡空中写真 ②遺跡遠景写真 ③土層断面 ④4号集石 検出状況
⑤2号集石検出状況 ⑥2号集石 検出状況



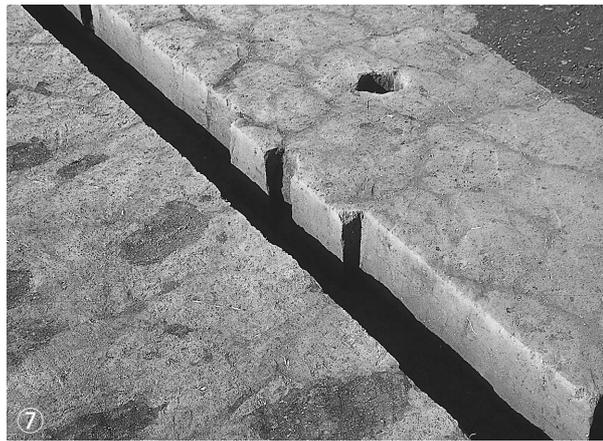
埋設土器 1号



埋設土器 2号

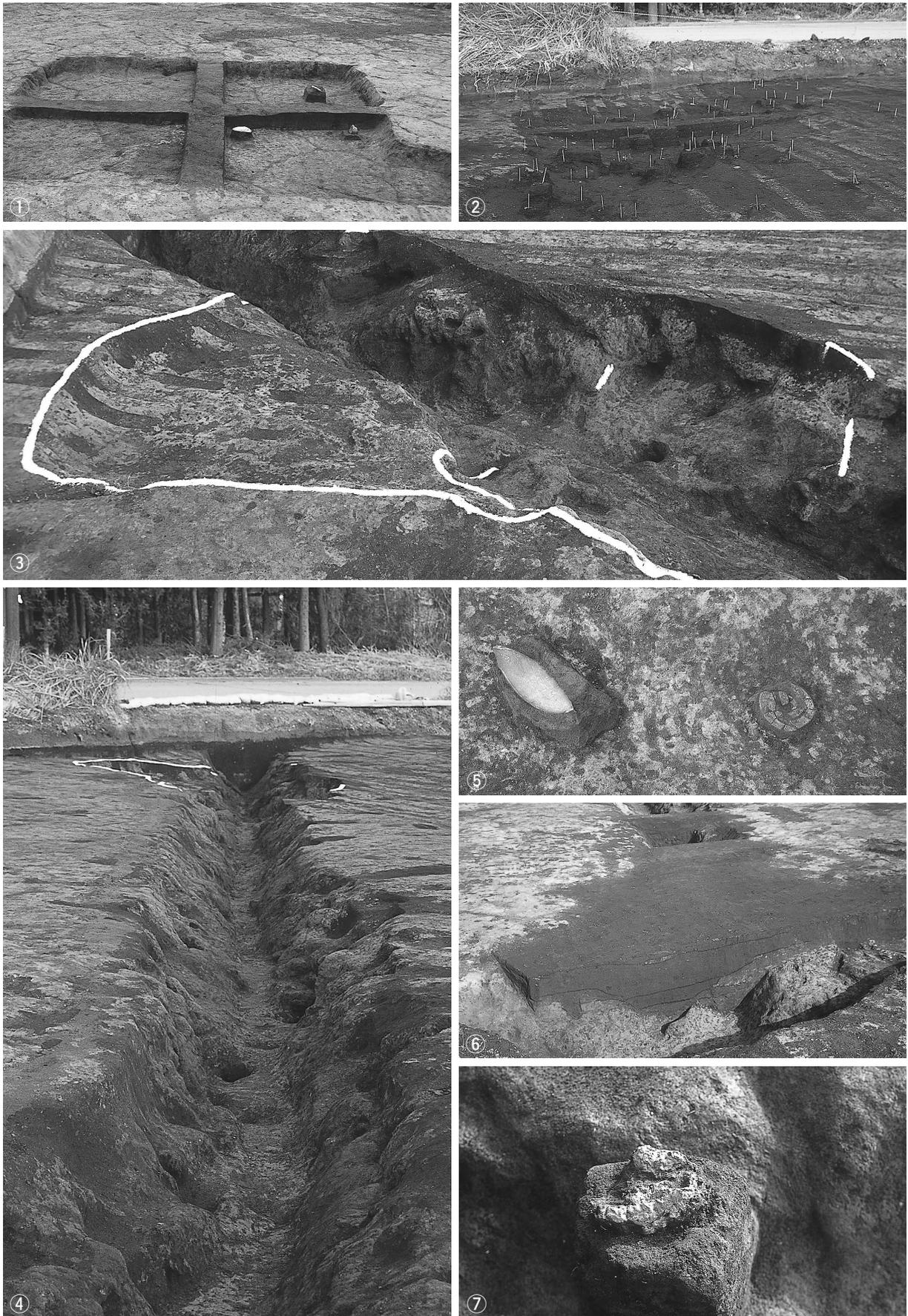


縄文時代晩期 埋設土器

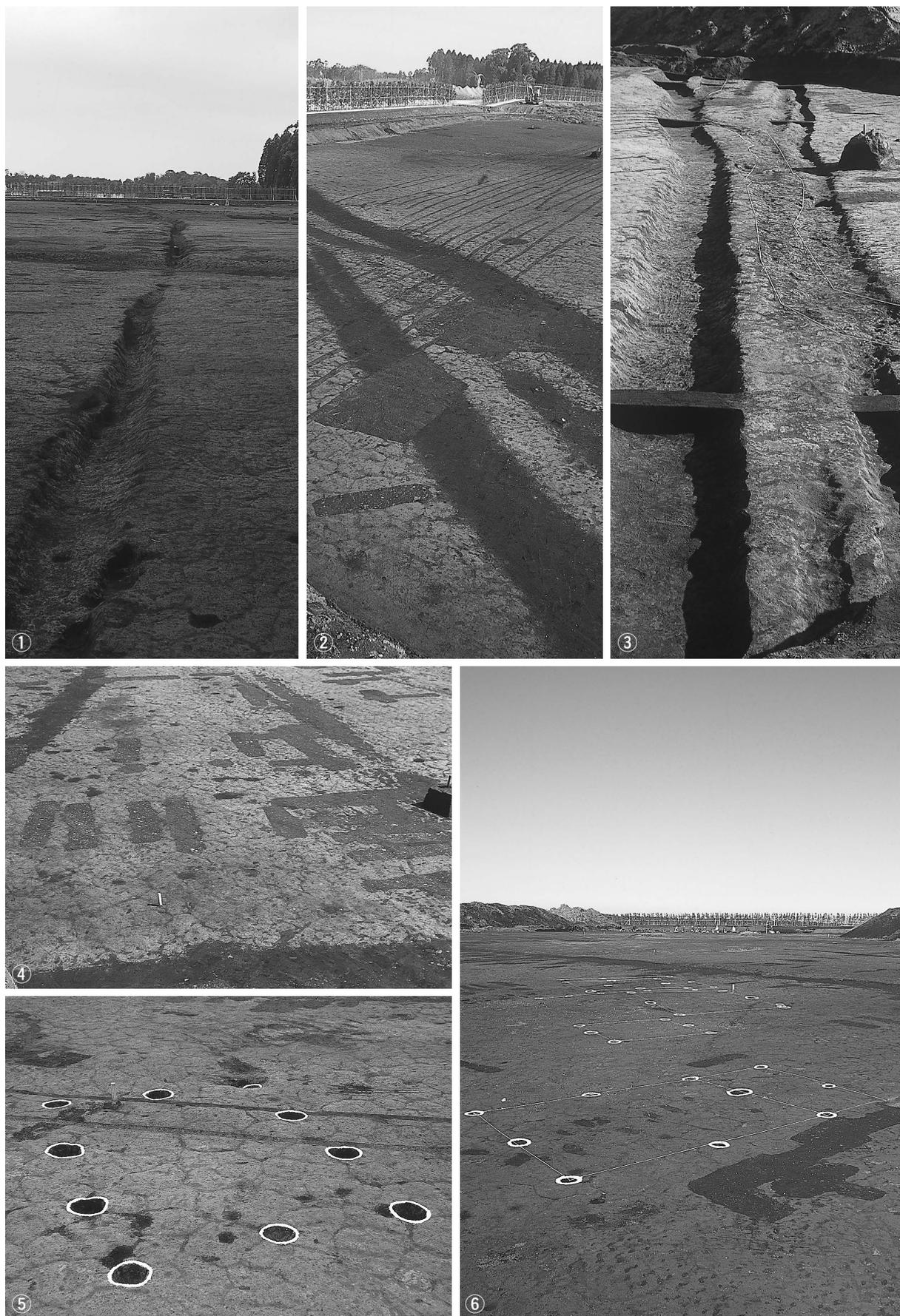


① 1号土坑半裁遺物出土状況 ② 1号土坑サンプリング風景 ③ 2号土坑完掘 ④ 6号土坑完掘
⑤ 掘立柱建物跡検出状況 ⑥ 掘立柱建物跡完掘 ⑦ 柱穴列完掘 (半裁)

図版4 (諏訪脇)

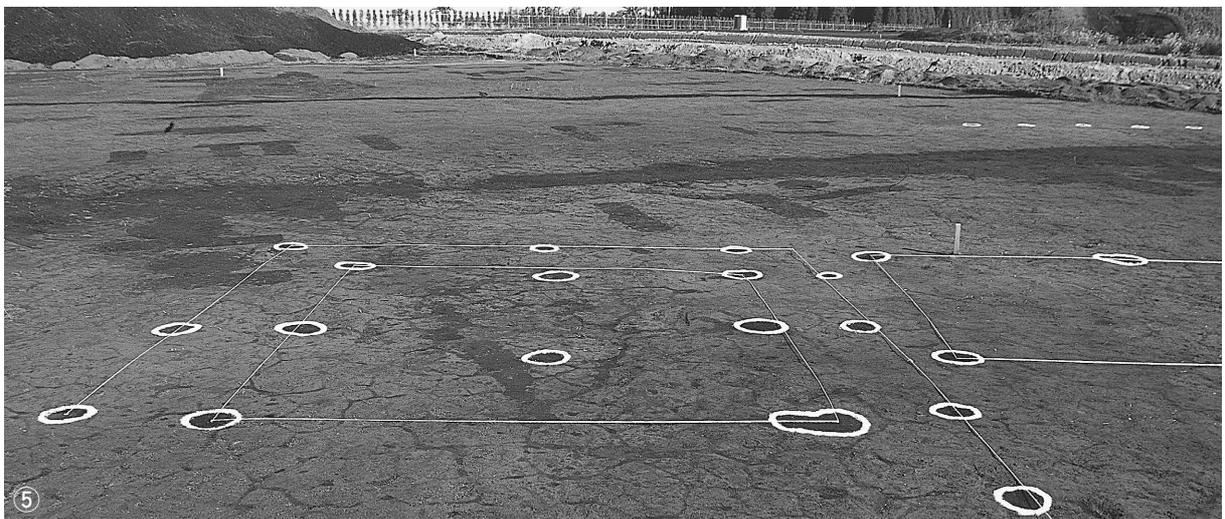
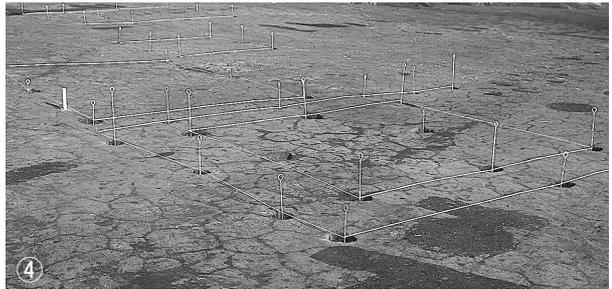
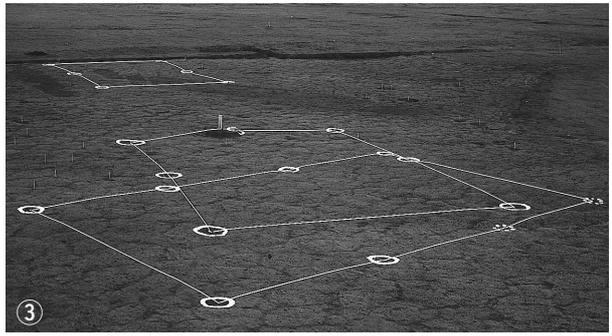
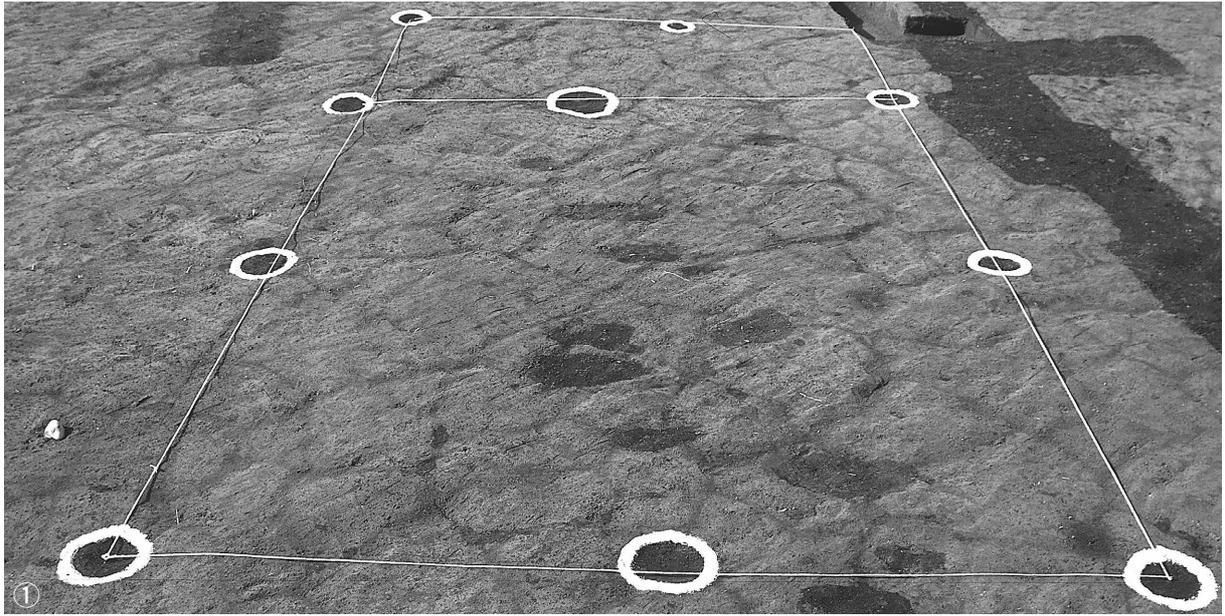


① 竪穴状遺構土層断面 ② 溝内遺物出土状況 ③ 竪穴状遺構 ④ 溝3完掘
⑤ 溝6遺物出土状況 ⑥ 溝3, 4合流部断面 ⑦ 鉄滓

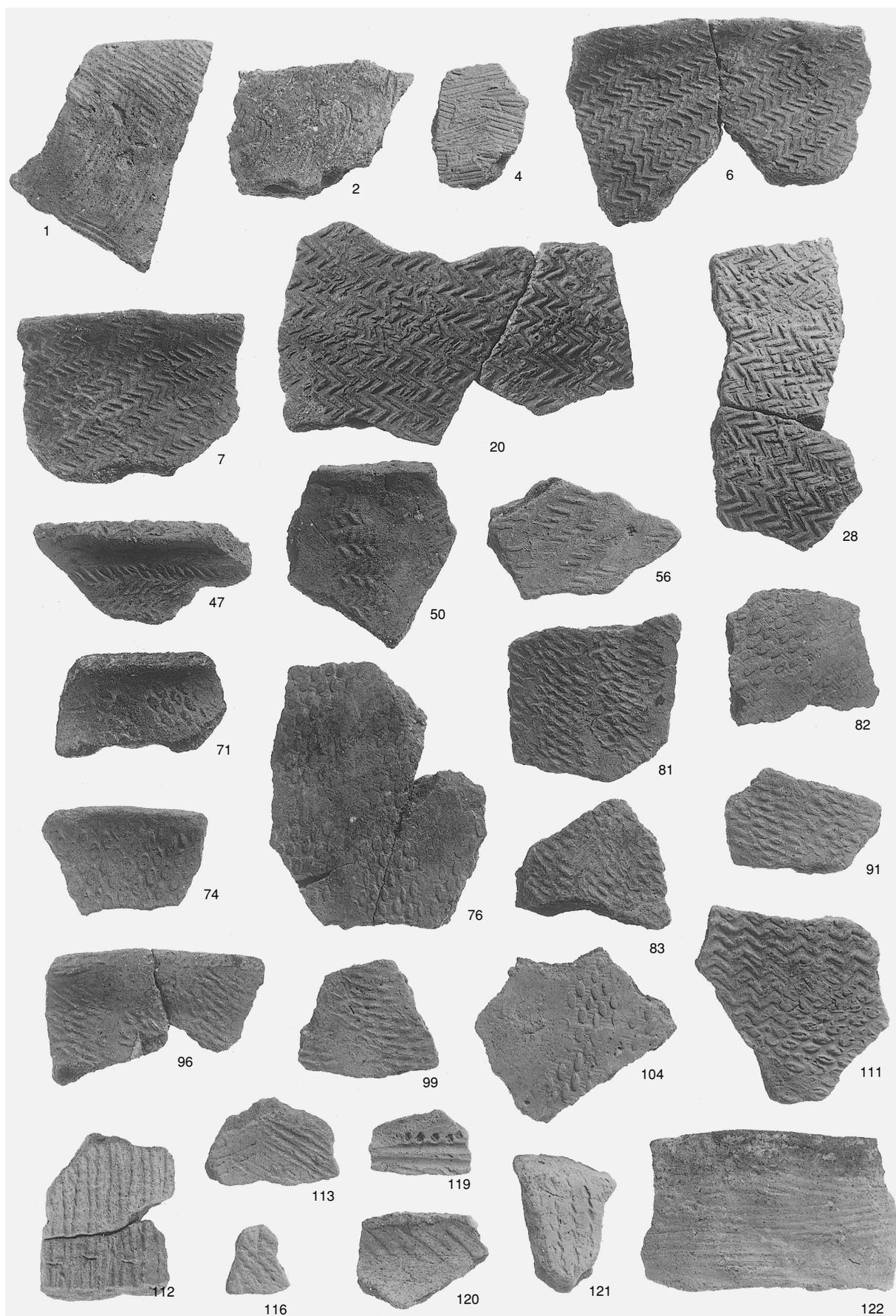


①~④溝状遺構 ⑤・⑥掘立柱建物跡

図版6
(諏訪脇)

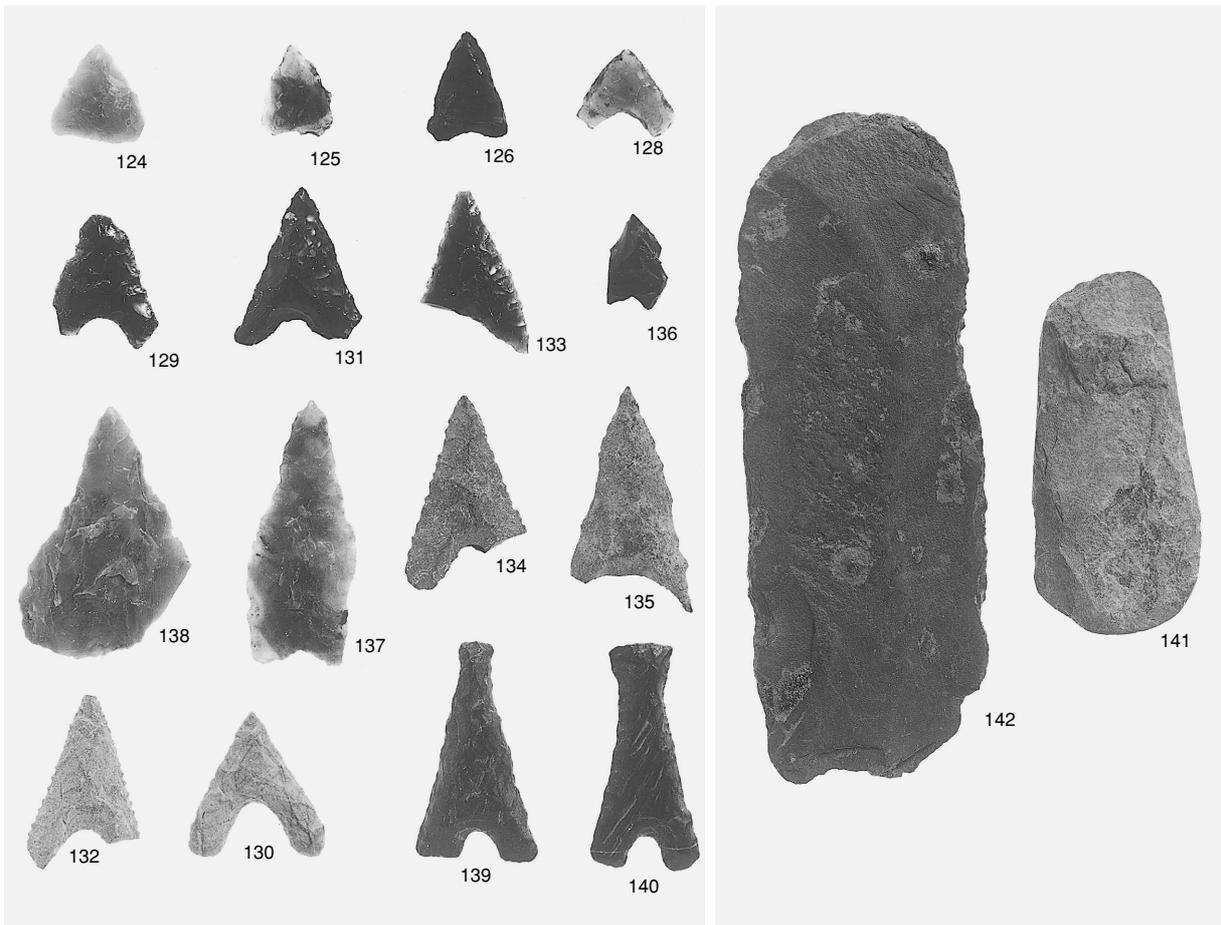


掘立柱建物跡



縄文時代早期土器

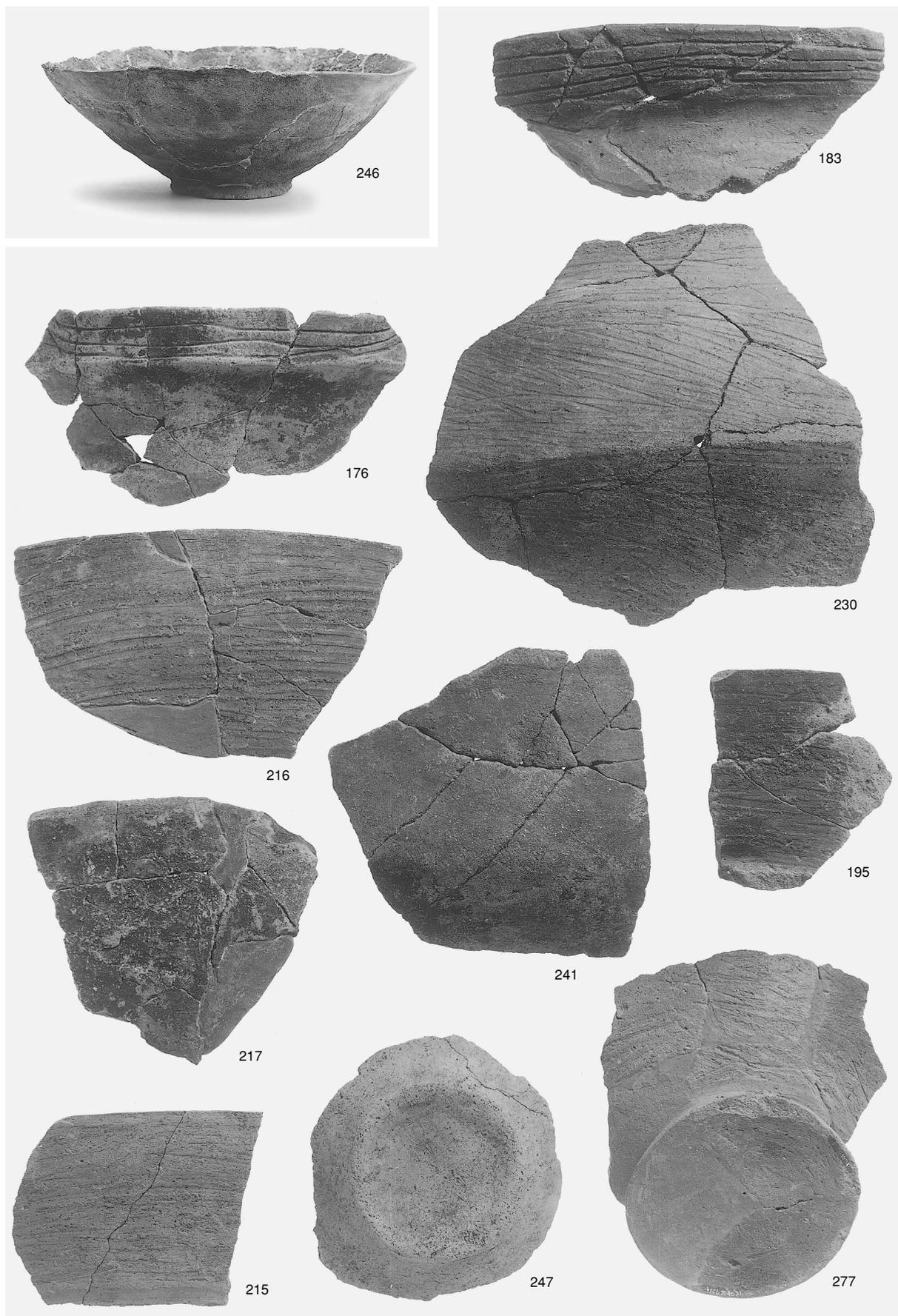
図版8
(諏訪脇)



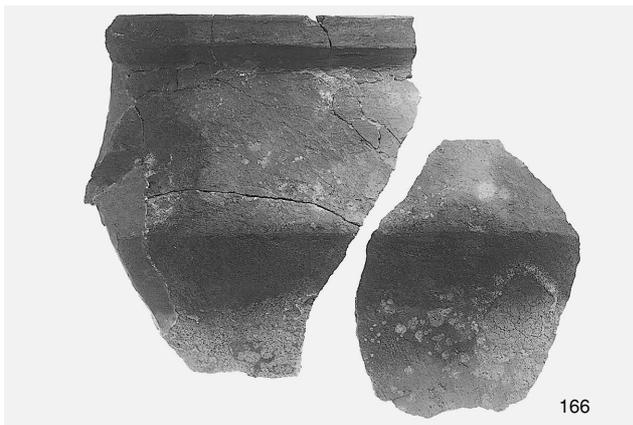
諏訪脇遺跡縄文時代早期石器



縄文時代中期・後期土器



晚期土器 1



1号土坑内

166



1号土坑内

167



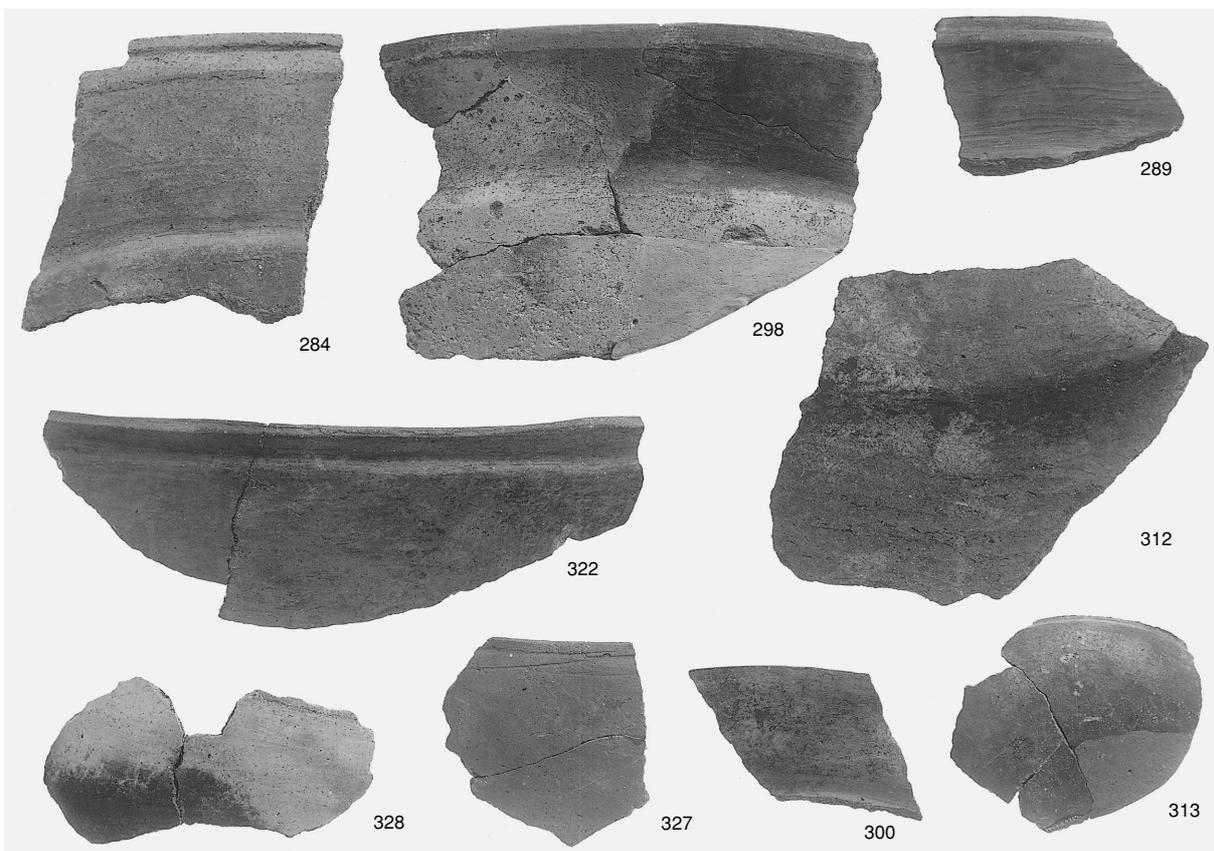
埋設土器1号

169



埋設土器2号

170



晚期土器2

284

298

289

322

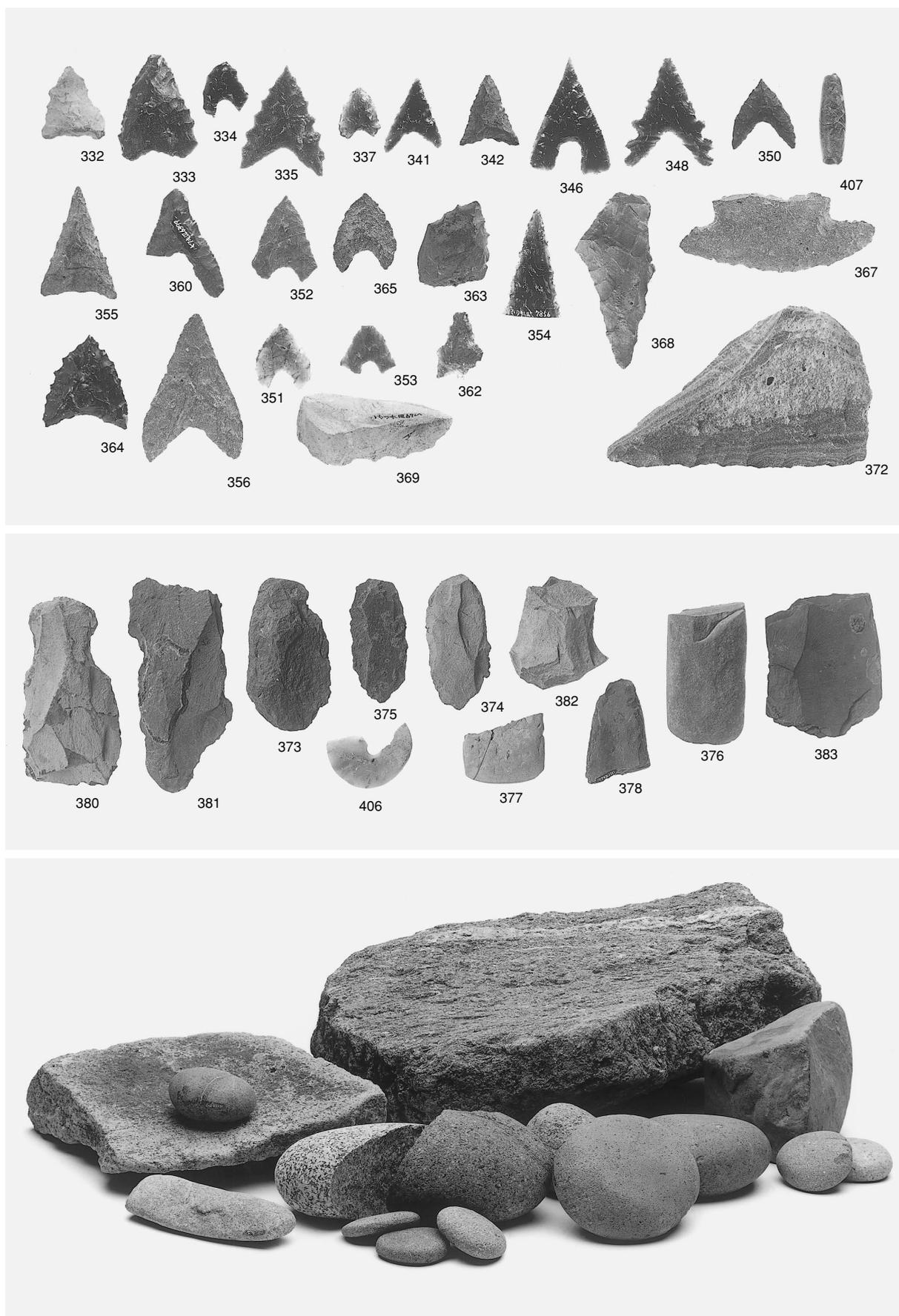
312

328

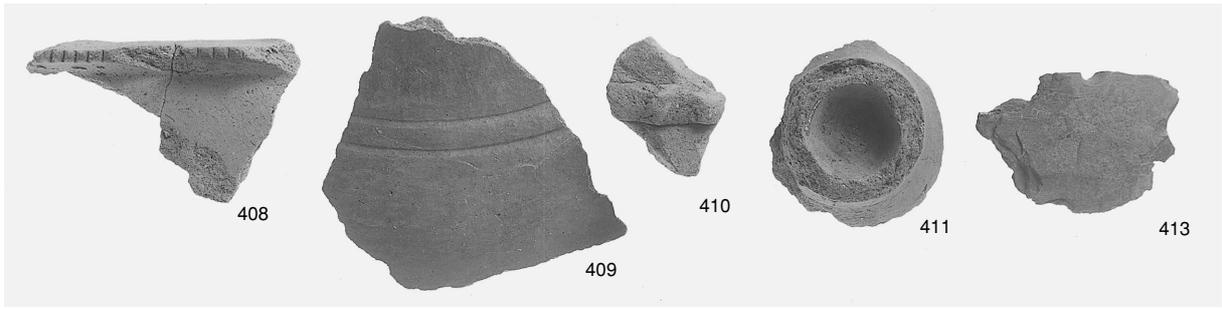
327

300

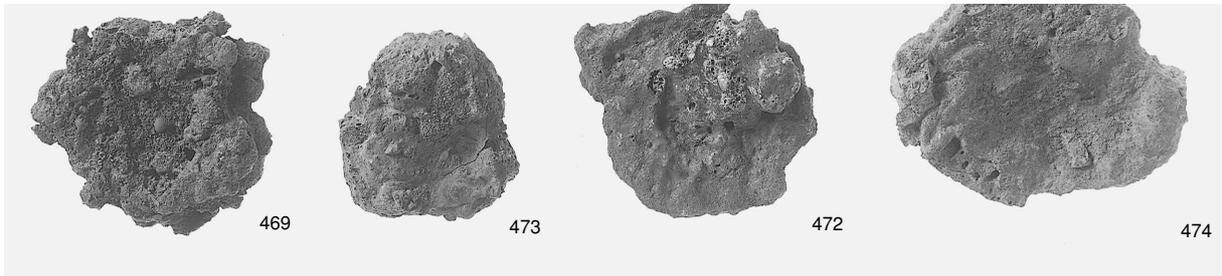
313



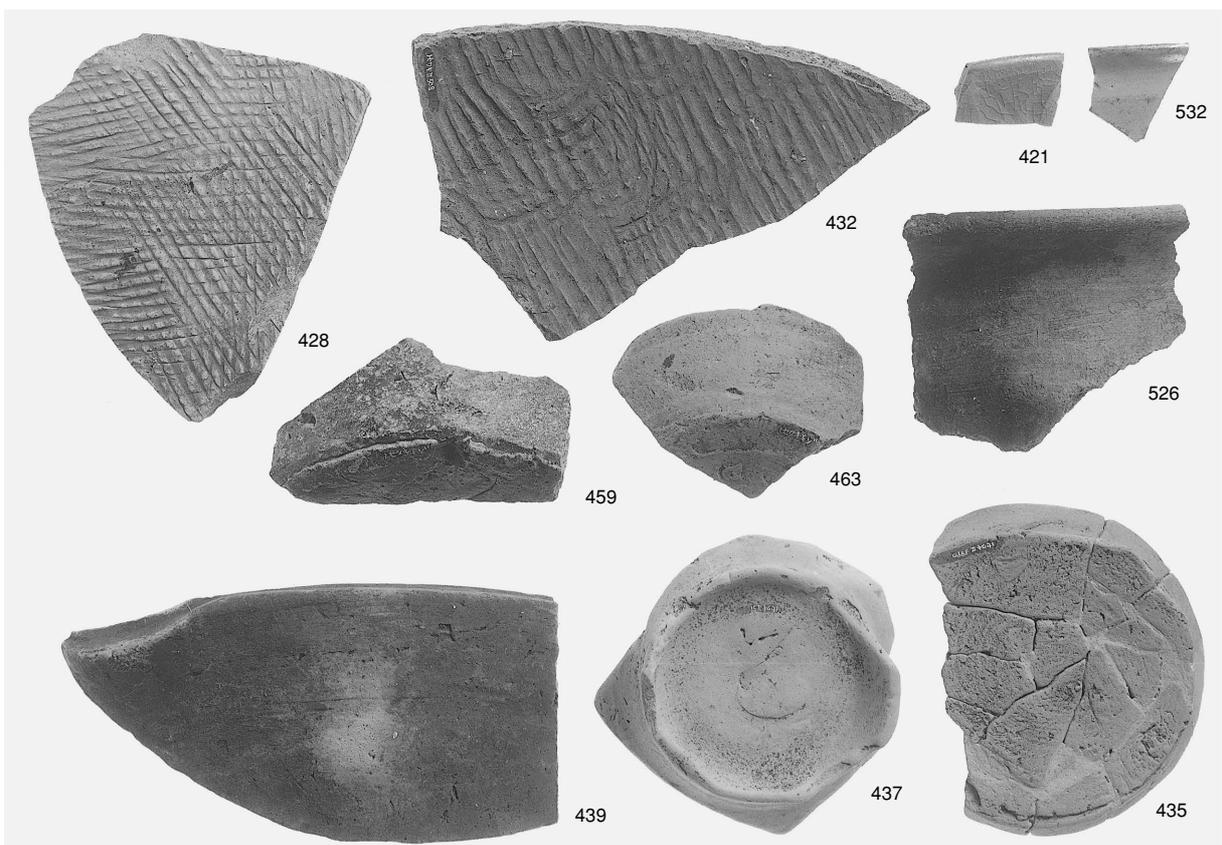
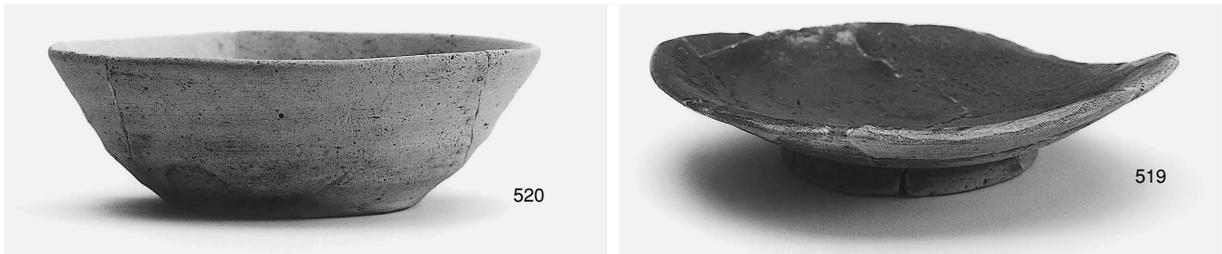
縄文時代晩期 石器



弥生・古墳時代遺物



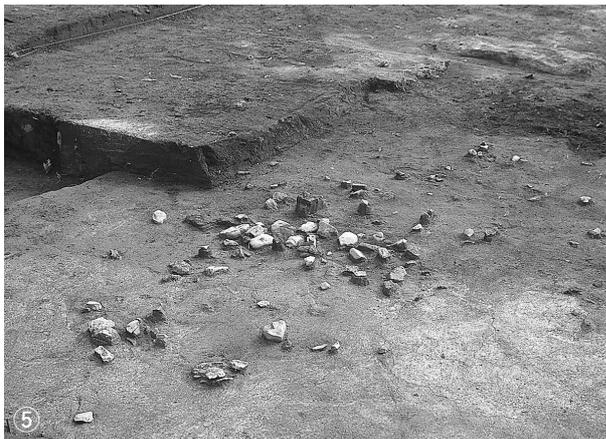
鉄滓



弥生・古墳時代・古代・中世遺物



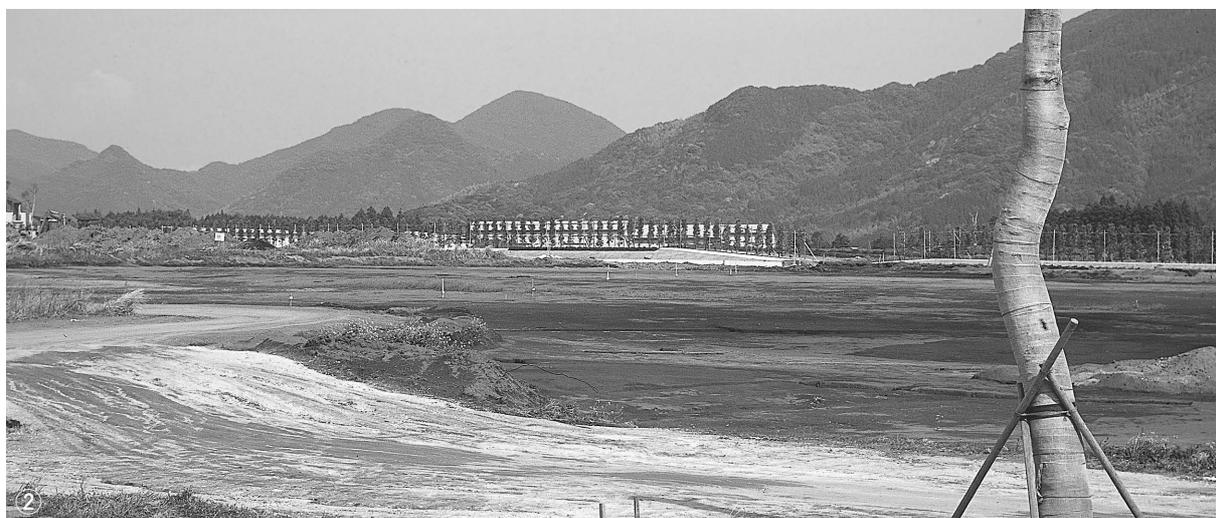
東側調査区 ①土層断面 ②遺跡遠景 ③旧石器時代遺物出土状況 ④ナイフ形石器出土状況
⑤ハンマー出土状況 ⑥石核出土状況 ⑦作業風景
西側調査区 ⑧土層断面



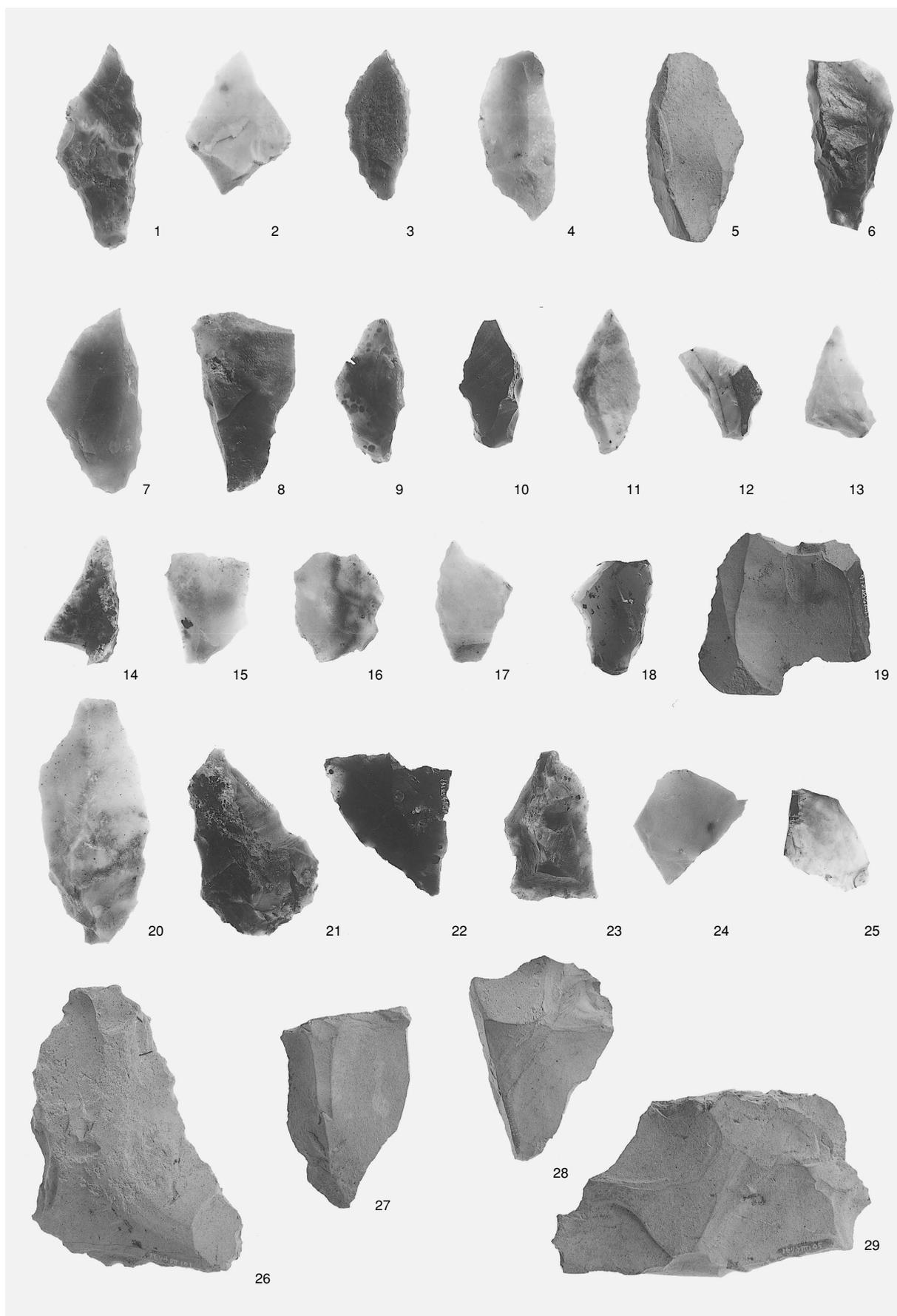
西側調査区 ①旧石器時代遺物出土状況 ②台形石器出土状況 ③ナイフ形石器出土状況
④～⑧旧石器時代礫群検出状況



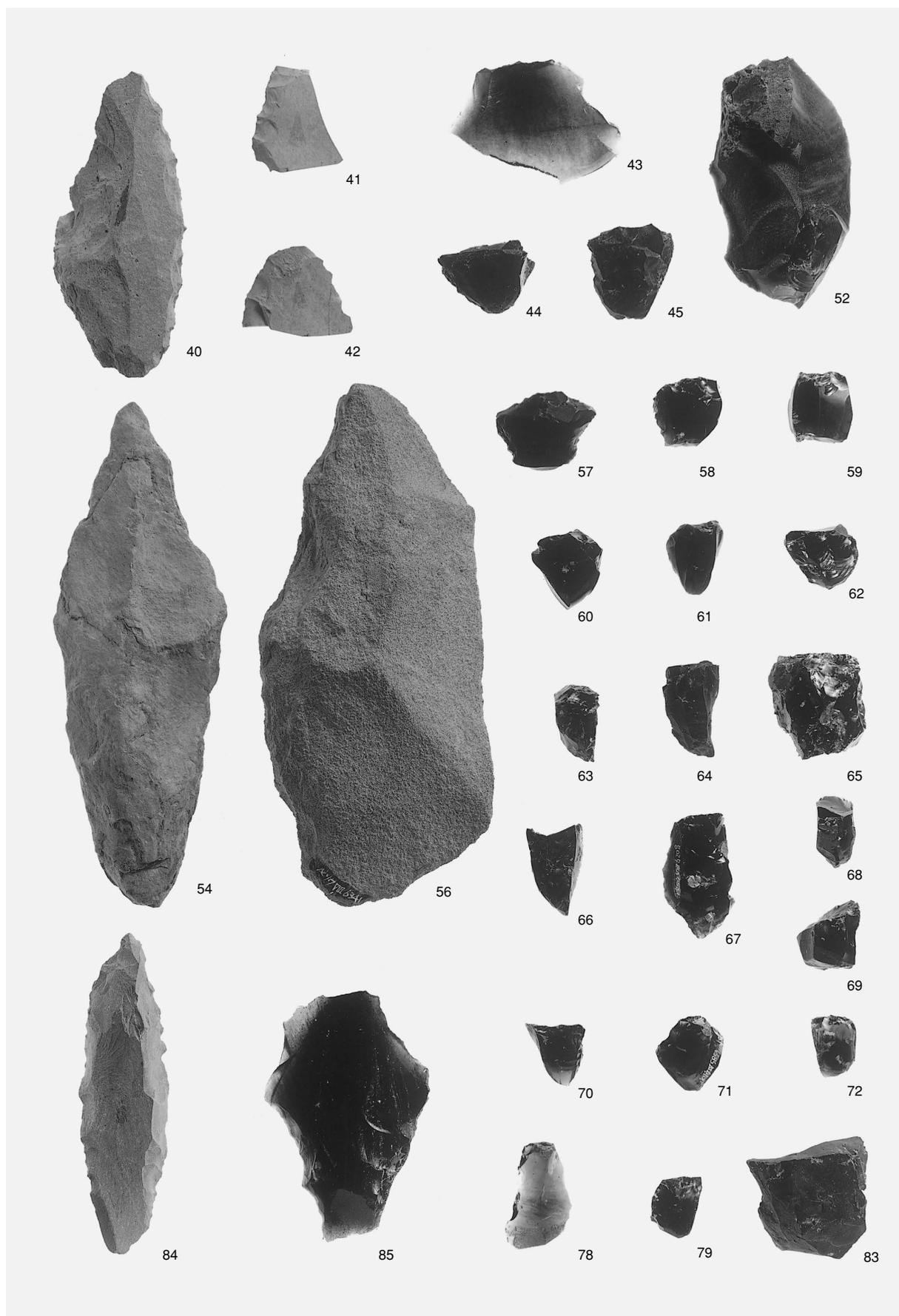
西側調査区 ①旧石器時代礫群検出状況 ②縄文時代早期遺物出土状況
③～⑤縄文時代早期集石検出状況 ⑥・⑦柱穴列2・3検出状況



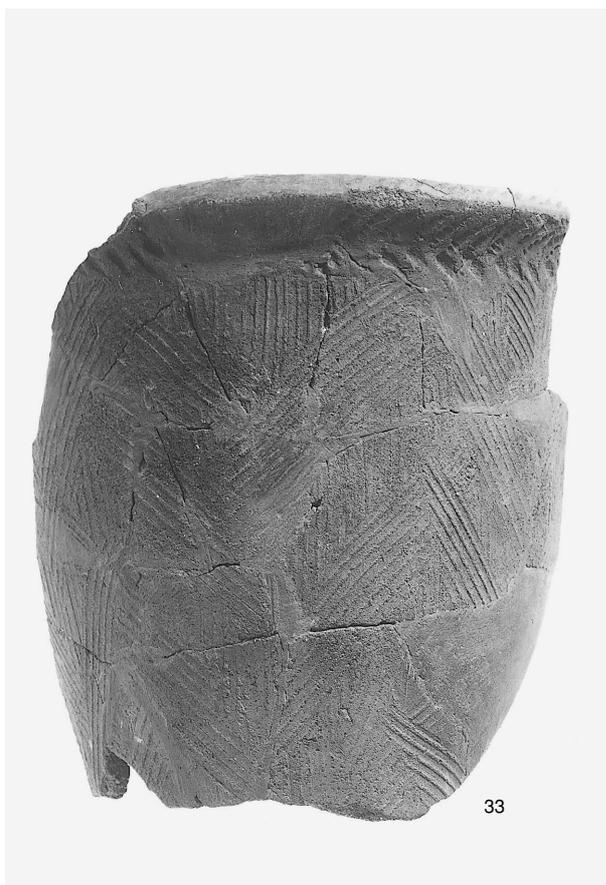
西側調査区 ①縄文時代晩期土坑検出状況 ②・③調査終了状況



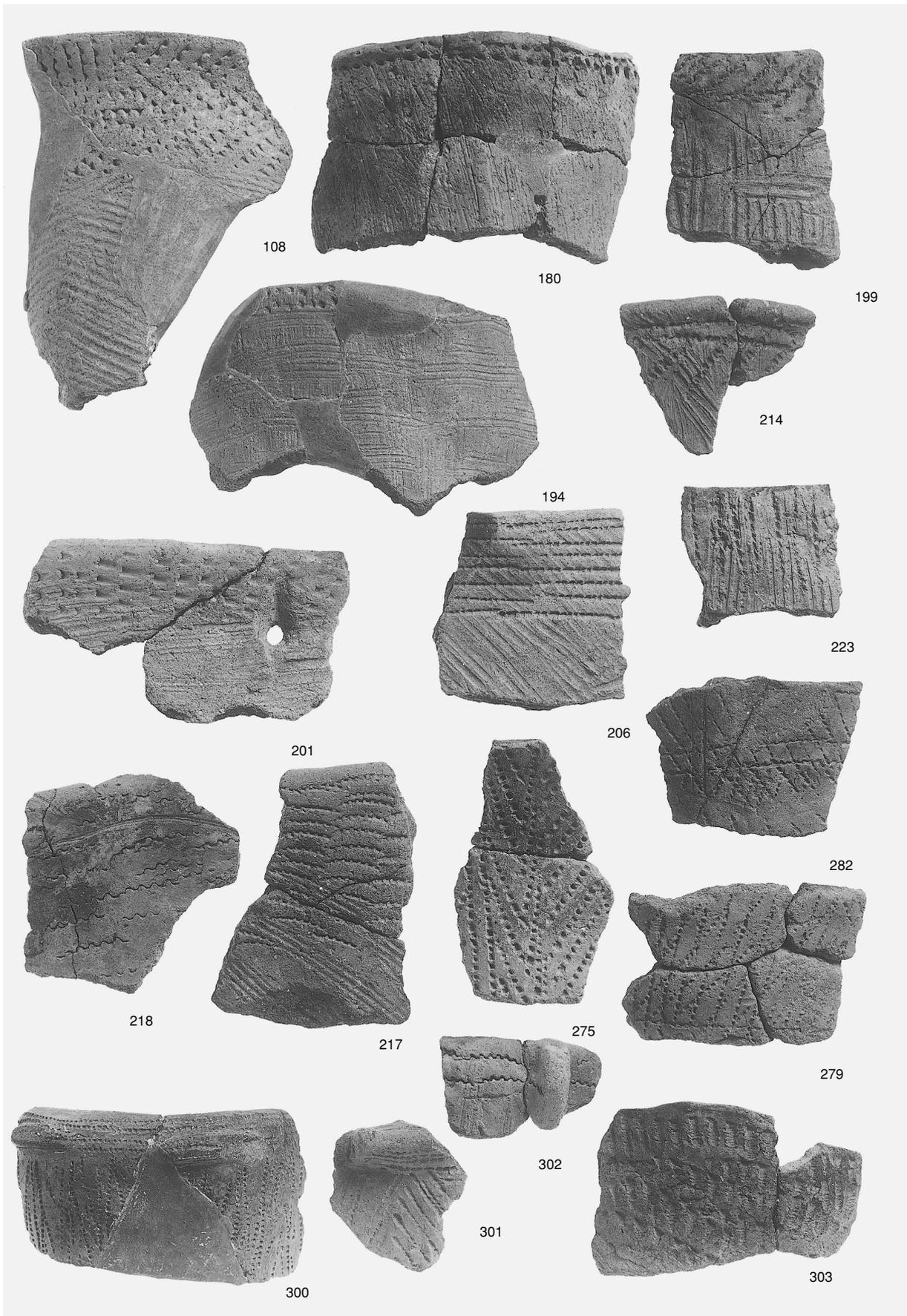
旧石器時代石器 1



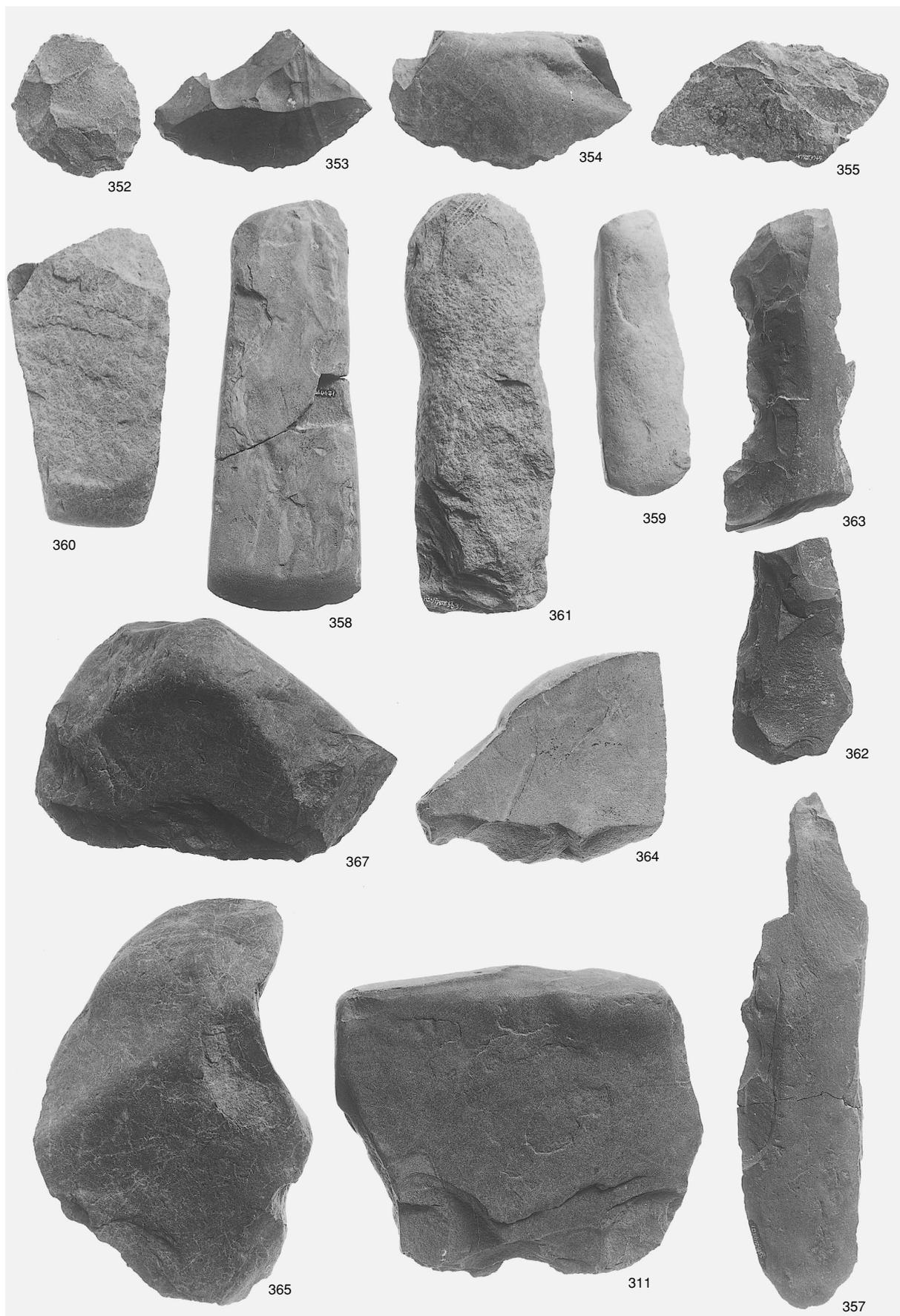
旧石器時代石器 2



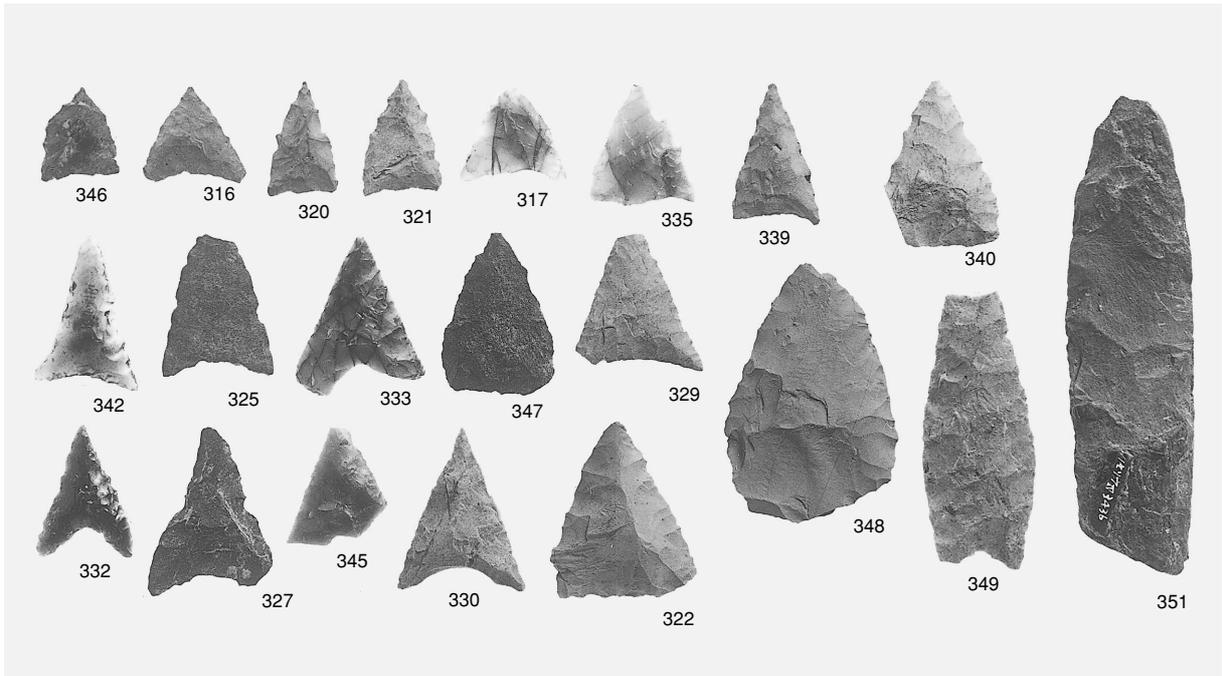
縄文時代早期土器 1



縄文時代早期土器 2



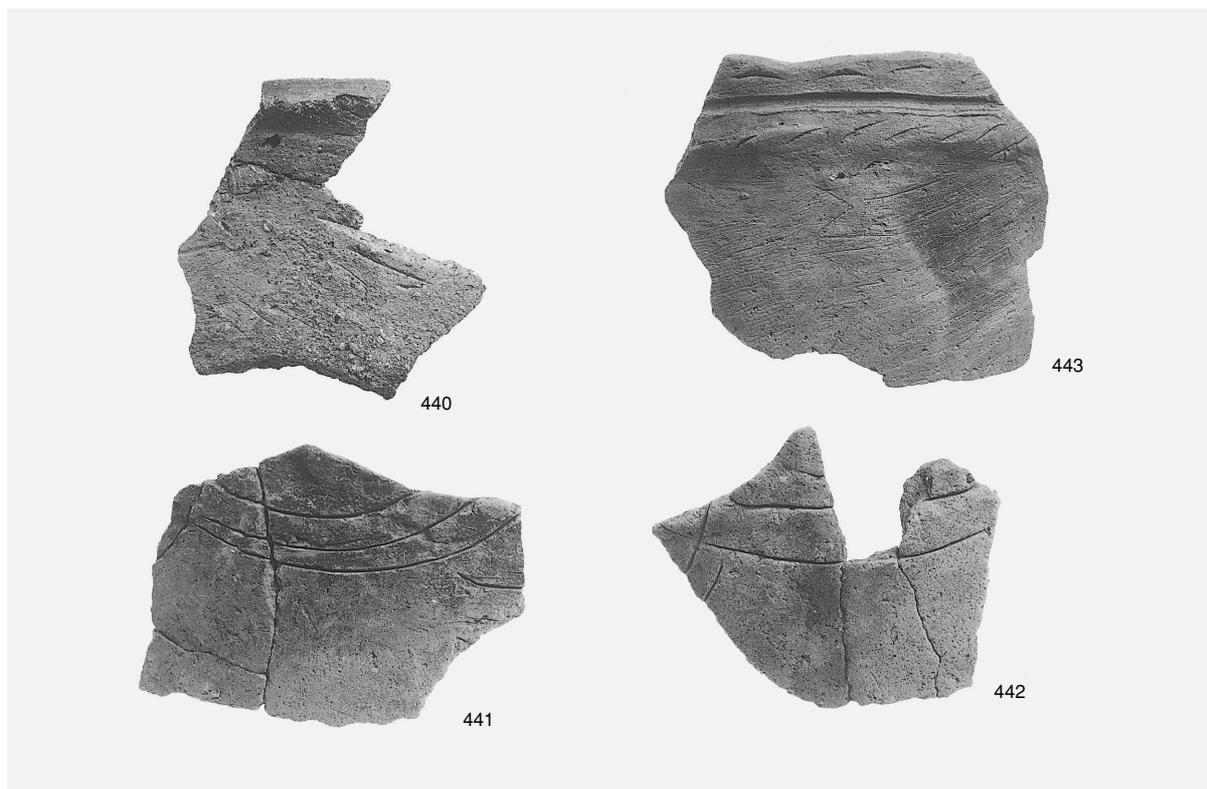
縄文時代早期石器 1



縄文時代早期石器 2



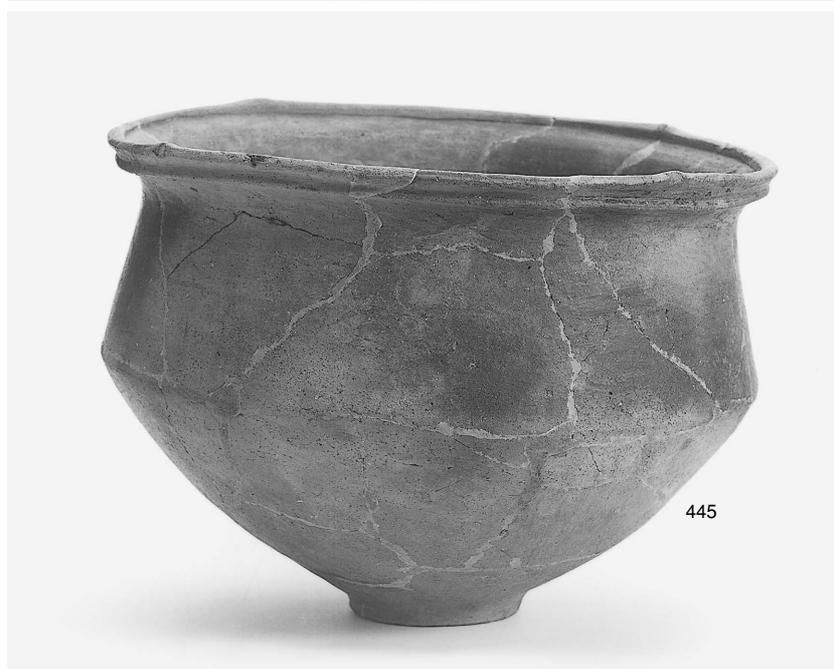
縄文時代早期石器 3



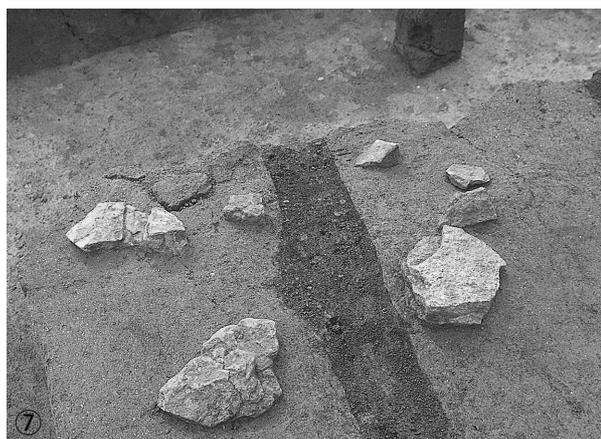
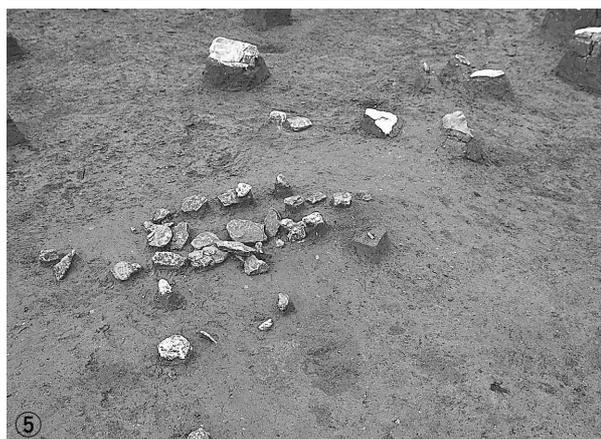
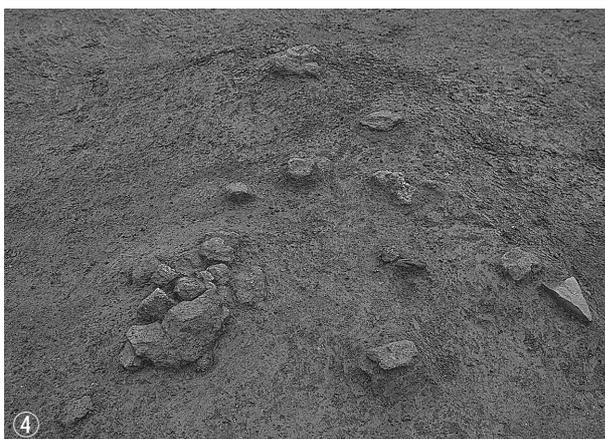
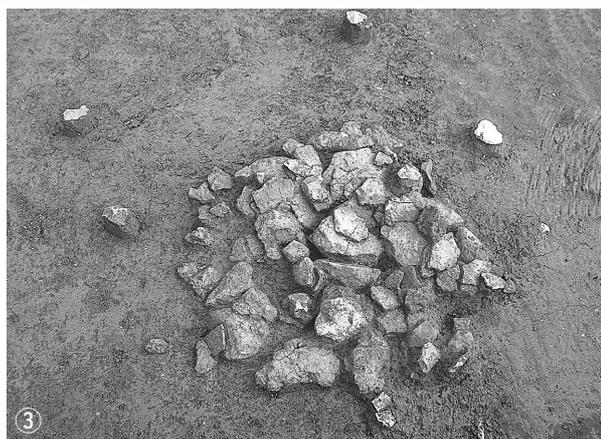
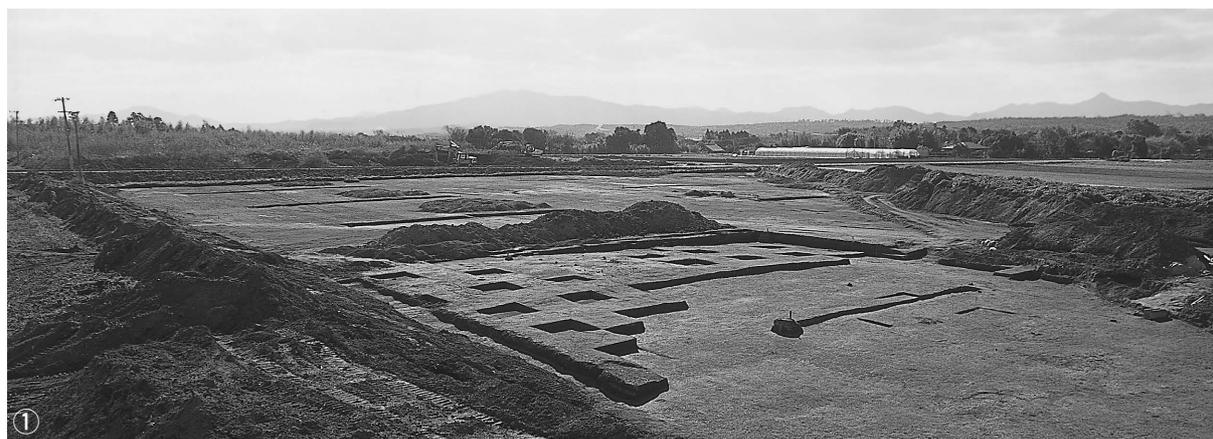
縄文時代中期・後期土器



縄文時代晚期土坑内出土遺物 1

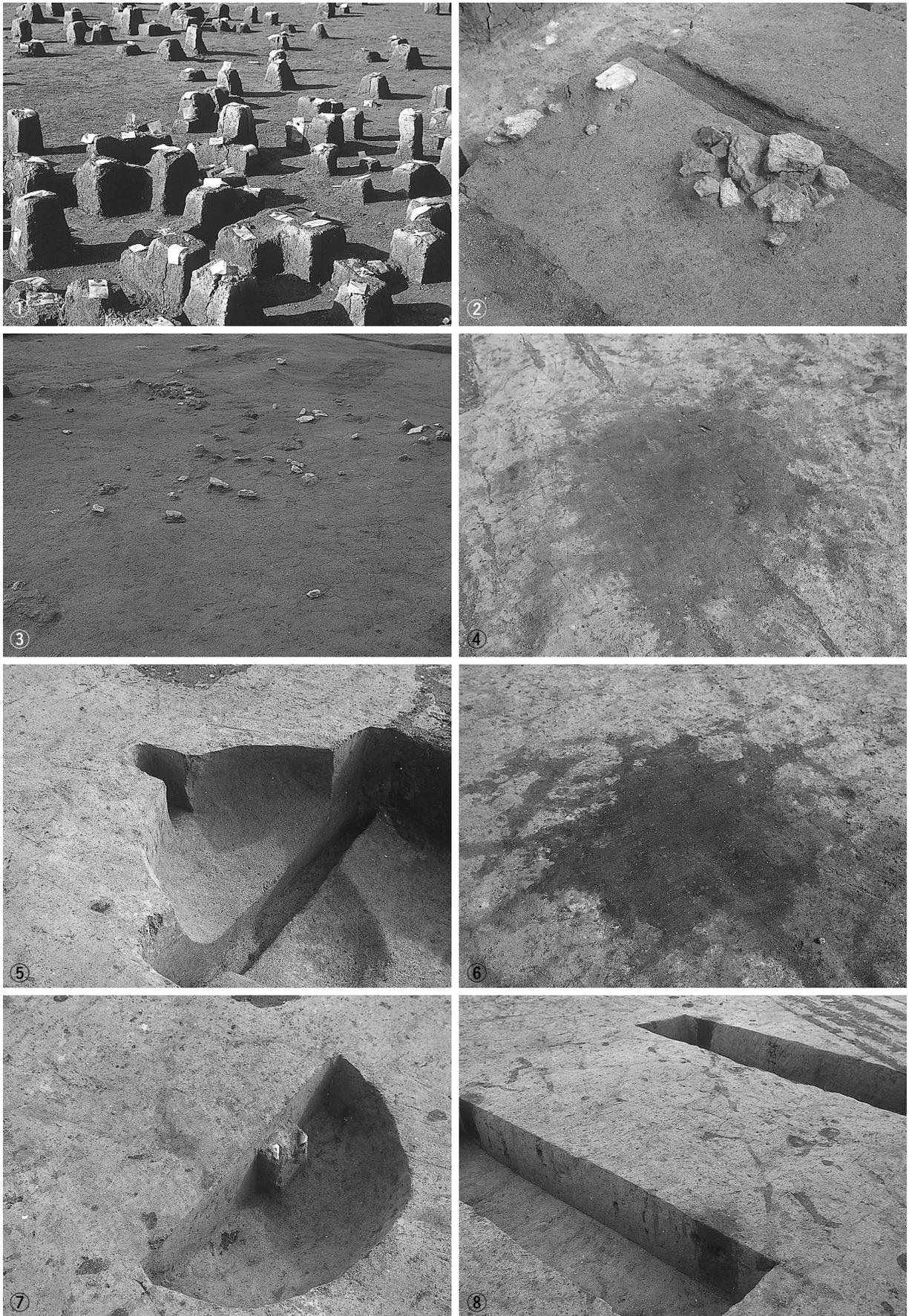


縄文時代晩期土坑内出土遺物 2

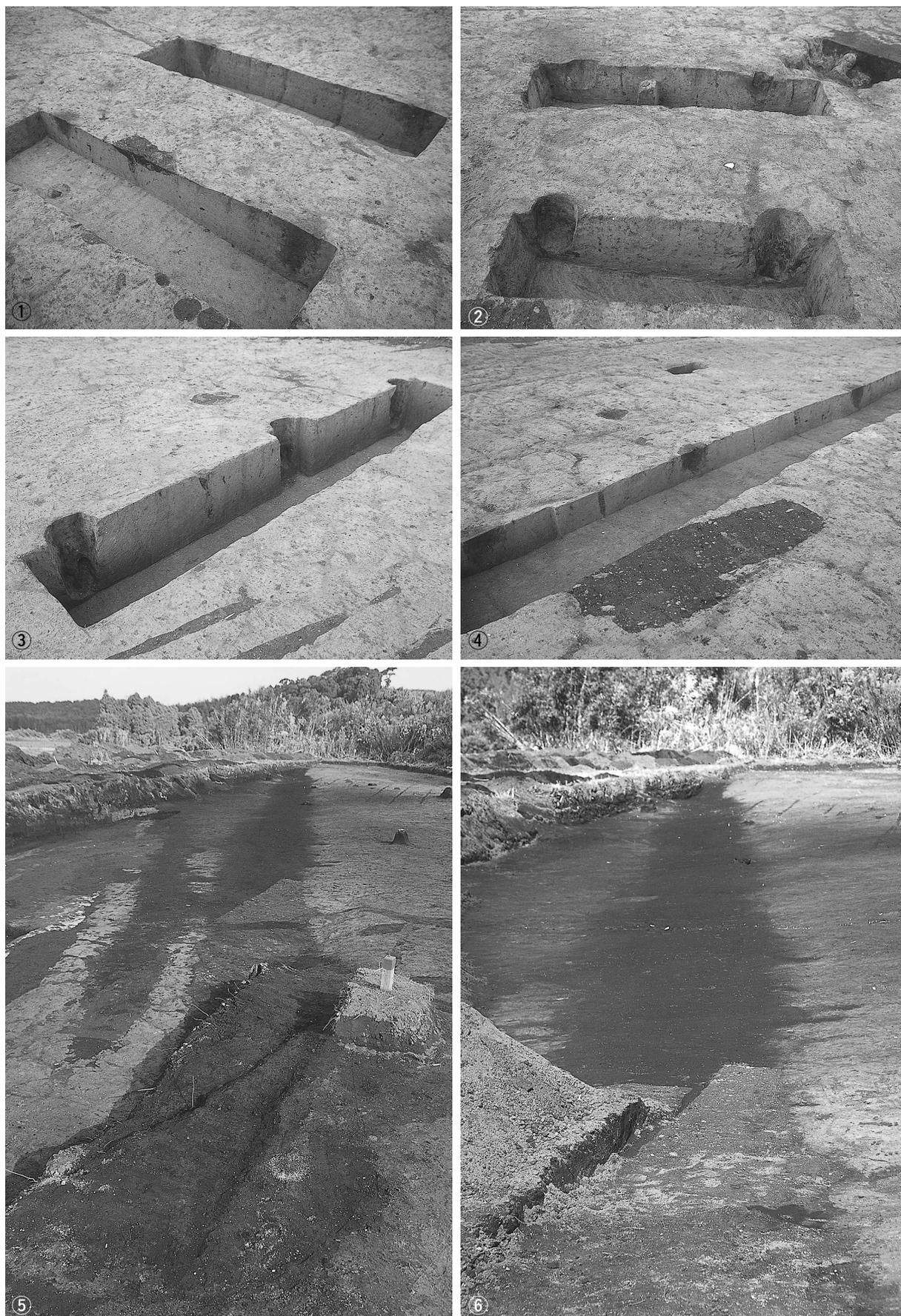


①遺跡遠景 ②～⑦旧石器時代礫群

図版26
(神原)



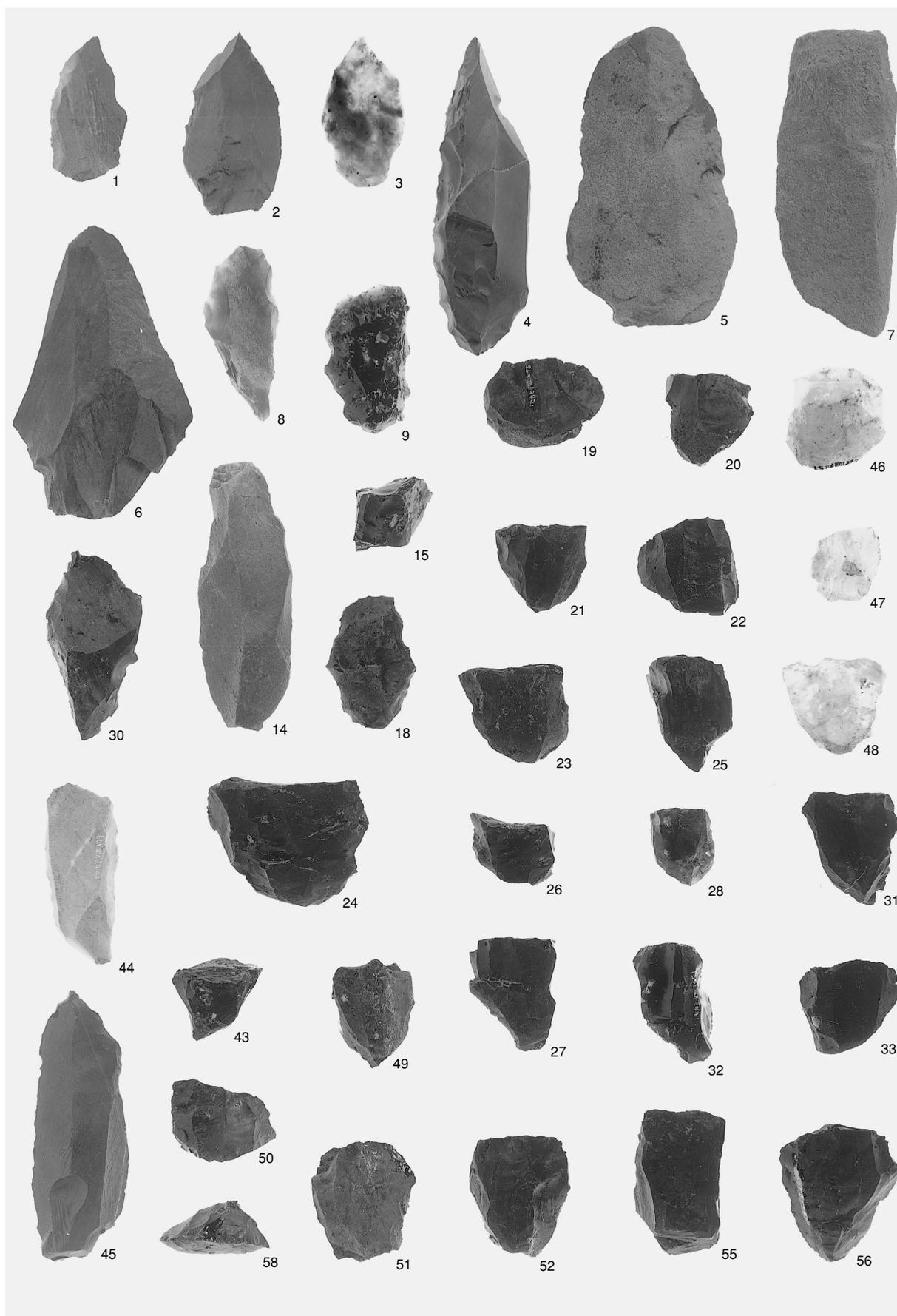
①建物集中区 ②・③草創期集石1号・4号 ④・⑤晚期土坑1号
⑥・⑦晚期土坑2号 ⑧晚期堀立柱建物跡1号



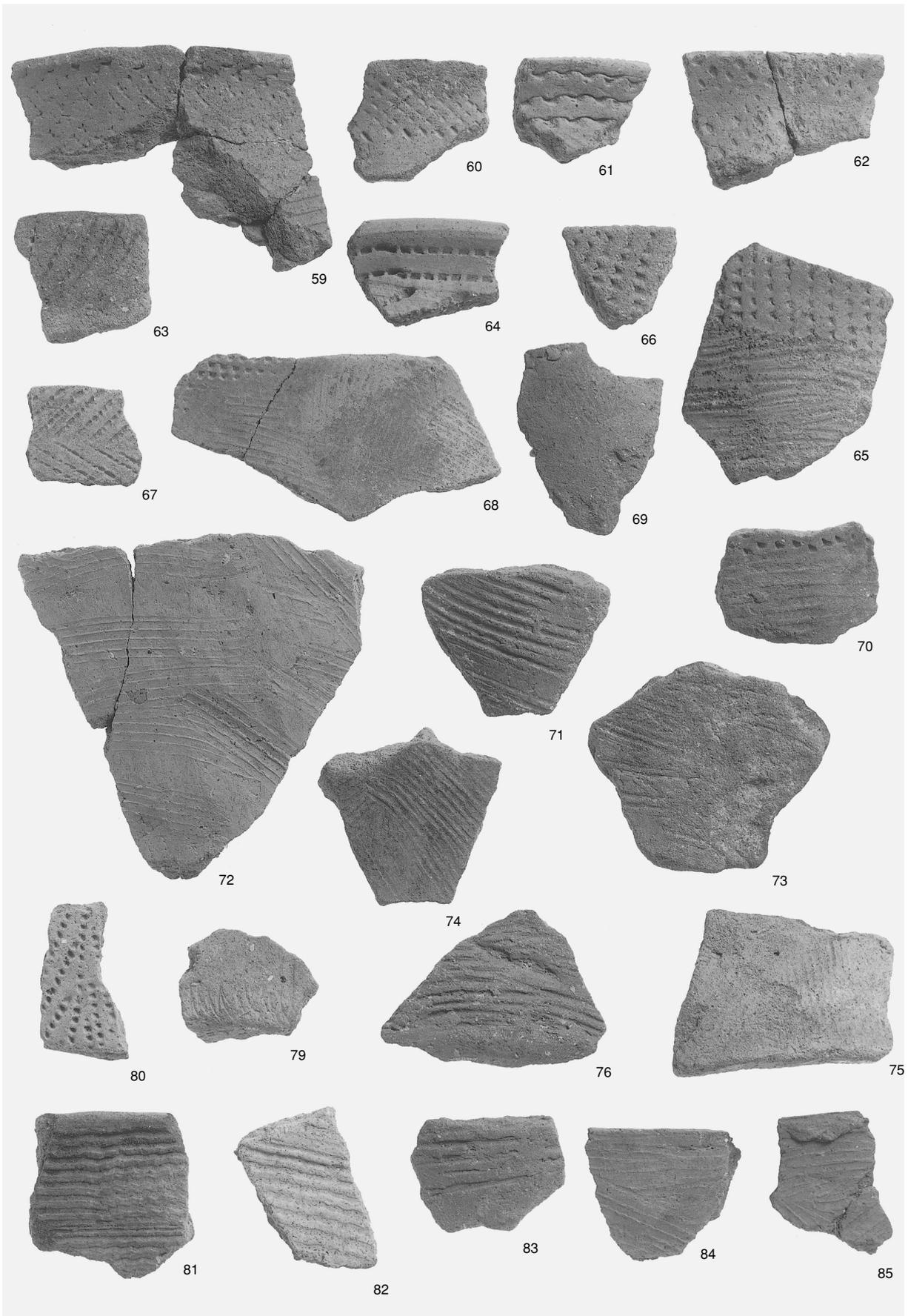
①・②晚期堀立柱建物跡2号・3号 ③・④晚期柱穴列1号・2号
⑤・⑥溝状遺構検出状況



①～③溝状遺構断面 ⑤溝状遺構内出土遺物 ④・⑥古道



旧石器時代石器



縄文時代早期土器